

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(4月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2025年2月) 2
- ◆韓国工作機械主要統計(2025年2月) 3
- ◆ドイツ工作機械主要統計(2025年第1四半期) 6
- ◆中国の工作機械輸入動向(4月) 9
- ◆インド工作機械輸入統計(3月) 9

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国: PMI 48.5%(5月) 10
- ◆中国製造業 PMI 49.5%(5月) 11
- ◆米国通商動向:
米政府、EDAソフトウェアの輸出規制拡大 11
- ◆米国通商動向: BISがHuaweiのAscendチップに
関するガイダンスを更新 12
- ◆米国通商動向: エンティティリストへの
追加可能性について 12
- ◆米国通商動向: ユニツリー社の
軍民融合への関与 13
- ◆ドイツ工作機械産業 国際プロジェクトが
工作機械の受注水準を支える 14
- ◆韓国製造業就業者、過去最低...産業の
骨組みが揺れる 14
- ◆海外業界動向: 東南アジア 15
- ◆スイス製造技術産業: 大きな下振れリスクを
抱えながらも低迷 16
- ◆海外業界動向: 中国 17
- ◆米国製造業への関税の影響に関する調査:
5つの重要なポイント 18
- ◆経済動向: インドBIS認証取得のご案内 21

3. 工作機械関連企業動向

- ◆SMEC、現代ウィア工作機械事業部の
買収9合目越え 22
- ◆HELLER社、パリ航空ショーで最先端の
5軸加工技術を展示 23
- ◆HERMLE社、2025年第1四半期の業績は
予想通り減少 24
- ◆DN Solutionsテクニカルハブが
業務全体の効率化を約束 24

4. 展示会情報

- ◆ブラジル Expomafe 26
- ◆EMO2025視察団(ご案内) 28
- ◆SIMTOS2026ジャパンパビリオン出展のご案内 29

5. その他

- ◆ユーザー産業動向 30

6. 日工会外需状況(5月) 40

お知らせ

- ROK Live-Japan-2025 42
- インド進出セミナー in MF Tokyo 2025 44
- 2025 台湾鍛圧機械海外促進記者会見 45

1. 工作機械統計・産業動向

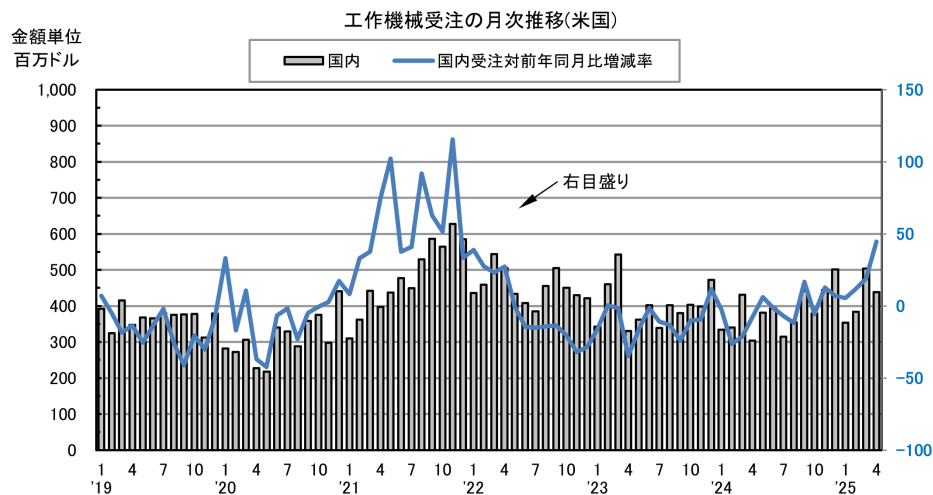
◆米国工作機械受注統計(4月)

AMT(米国製造技術工業協会)発表の受注統計(USMTO)によると、2025年4月の米国切削型工作機械受注は、4億3,900万ドルで前月比11.7%減、前年同月比44.5%増となった。

通常、4月の機械受注は3月から21%減少する。これは、多くの機械メーカーが会計年度末を迎えるため、受注量が異常に増加する傾向があるためである。今年の3月から4月までの機械受注は12.7%減少し、2022年4月以来の最も低い減少率となった。この堅調な需要の一部は、輸入品に対する今後の関税の前倒しや、国内で調達された製品および部品に対する需要増加への期待に起因している可能性がある。製造業全体の生産量は減少しているにもかかわらず、機械メーカーは4月に生産量を0.3%増加させ、2024年10月に始まった上昇傾向を継続した。

需要は4月まで業界の上昇基調を維持したが、最近の関税政策は実施が不安定なため、その真の影響を把握するにはしばらく時間がかかる可能性がある。全米製造業者協会(NAM)が最近発表した製造業者見通し調査では、前回の調査と比較して、楽観的な経済見通しを表明した回答者が大幅に減少した。この楽観的な見方の後退にもかかわらず、調査では、設備投資は年初に予測された水準よりは低いものの、今後12か月間で依然として緩やかに増加すると予想されていることも報告されている。

(USMTOレポート 2025年6月9日付)



◆米国工作機械受注統計(地域別)

(金額単位：百万ドル)

地域別		2025年4月 (P)	2025年3月	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2025年累計 (P)	2024年累計 (R)	前年同期比 (%)
全米	切削型	439.00	496.88	-11.7	303.89	44.5	1,664.01	1,410.89	17.9
	成型型	5.90	12.48	-52.8	14.31	-58.8	28.37	25.88	9.6
	計	444.89	509.37	-12.7	318.21	39.8	1,692.38	1,436.77	17.8
北東部	切削型	60.89	85.47	-28.8	44.79	36.0	271.13	225.15	20.4
	成型型	D	D	-47.1	D	284.3	D	D	126.1
	計	D	D	-29.2	D	37.5	D	D	21.4
南東部	切削型	49.66	63.73	-22.1	44.15	12.5	208.58	213.05	-2.1
	成型型	D	D	*	D	D	D	D	-20.2
	計	D	D	-21.4	D	13.5	D	D	-2.3
北中東部	切削型	99.22	108.70	-8.7	60.99	62.7	372.23	330.30	12.7
	成型型	D	D	-84.2	D	-29.2	D	D	81.8
	計	D	D	-13.3	D	60.4	D	D	13.8
北中西部	切削型	82.02	84.59	-3.0	61.49	33.4	277.50	263.80	5.2
	成型型	D	1.37	D	D	-87.4	D	D	-47.9
	計	D	85.96	D	D	13.5	D	D	2.2
南中部	切削型	65.69	52.34	25.5	24.21	171.4	187.19	132.80	41.0
	成型型	D	D	-76.3	D	11.3	D	D	183.6
	計	D	D	22.2	D	168.9	D	D	42.0
西部	切削型	81.51	102.05	-20.1	68.27	19.4	347.39	245.78	41.3
	成型型	D	D	573.6	D	D	D	D	*
	計	D	D	-19.0	D	21.3	D	D	42.0

P：暫定値 R：改定値

四捨五入により合計値及び%は一致しない場合がある

*1000%以上

D：ドル建て価格非公開

◆台湾工作機械輸出入統計(2025年3月)

台湾工作機械輸出入統計(2025年1-3月)

(単位：千USドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2024.1-3	2025.1-3	前年比(%)	2024.1-3	2025.1-3	前年比(%)
放電加工機・レーザ加工機	31,863	32,088	0.7	42,551	60,454	42.1
マシニングセンタ	161,672	137,237	-15.1	11,365	60,299	430.6
旋盤	129,366	95,805	-25.9	17,177	14,581	-15.1
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	36,669	35,181	-4.1	2,257	2,130	-5.6
研削盤	51,925	38,545	-25.8	10,604	9,943	-6.2
歯切り盤・歯車機械	28,318	21,092	-25.5	7,508	7,549	0.5
切 削 型 合 計	439,813	359,948	-18.2	91,462	154,956	69.4

出所：TAMI

台湾工作機械国別輸出入統計(2025年1-3月)

(金額単位：千USドル)

輸 出						輸 入					
順位	国 別	2024.1-3	2025.1-3	割合(%)	前年比(%)	順位	国 別	2024.1-3	2025.1-3	割合(%)	前年比(%)
1	中 国	144,361	119,250	26.4	-17.4	1	ベ ル ギ ー	389	92,416	40.4	23657.3
2	米 国	81,875	77,462	17.2	-5.4	2	日 本	52,362	59,962	26.2	14.5
3	ト ル コ	55,909	37,175	8.2	-33.5	3	中 国	21,368	26,198	11.4	22.6
4	イ ン ド	31,699	32,688	7.2	3.1	4	ド イ ツ	13,291	18,613	8.1	40.0
5	タ イ	10,309	23,510	5.2	128.1	5	韓 国	1,578	7,448	3.3	372.0
6	ベ ト ナ ム	23,279	15,652	3.5	-32.8	6	ス イ ス	5,266	5,918	2.6	12.4
7	日 本	9,406	12,614	2.8	34.1	7	米 国	5,116	3,944	1.7	-22.9
8	ブラジル	7,117	11,433	2.5	60.6	8	タ イ	1,706	3,476	1.5	103.8
9	オランダ	15,569	8,883	2.0	-42.9	9	イタリヤ	1,725	2,662	1.2	54.3
10	英 国	7,804	8,574	1.9	9.9	10	イスラエル	1,707	2,268	1.0	32.9
11	マレーシア	8,643	8,483	1.9	-1.9		そ の 他	13,515	5,977	2.6	-55.8
12	インドネシア	7,309	8,136	1.8	11.3						
13	イタリヤ	8,881	7,053	1.6	-20.6						
14	メキシコ	4,809	6,926	1.5	44.0						
15	ド イ ツ	15,040	6,765	1.5	-55.0						
16	韓 国	13,708	5,609	1.2	-59.1						
17	オーストラリア	7,215	5,560	1.2	-22.9						
18	カナダ	4,015	5,047	1.1	25.7						
19	ポーランド	2,723	4,812	1.1	76.7						
20	ベルギー	2,466	4,561	1.0	85.0						
21	フランス	7,583	3,517	0.8	-53.6						
22	ウクライナ	1,147	2,602	0.6	126.9						
23	シンガポール	1,778	2,111	0.5	18.7						
24	スペイン	3,719	2,080	0.5	-44.1						
25	アラブ首長国	2,797	1,787	0.4	-36.1						
26	ギリシャ	1,467	1,673	0.4	14.0						
27	フィリピン	1,545	1,603	0.4	3.8						
28	南アフリカ	2,331	1,599	0.4	-31.4						
29	香 港	2,733	1,575	0.3	-42.4						
30	チェコ	618	1,443	0.3	133.5						
	そ の 他	42,368	20,937	4.6	-50.6						
	合 計	530,223	451,120	100.0	-14.9		合 計	118,023	228,882	100.0	93.9

出所：海関進出口統計月報

◆韓国工作機械主要統計(2025年3月)

○業種別受注(2025.3) 韓国工作機械受注(2025年3月) (単位：百万ウォン)

需要業種	2025.2	2025.3	前月比(%)	2024.1-3	2025.1-3	前年同期比(%)
鉄鋼・非鉄金属	2,640	2,310	-12.5	13,168	8,580	-34.8
金属製品	890	221	-75.2	5,773	1,234	-78.6
一般機械	26,623	38,344	44.0	75,751	80,703	6.5
電気機械	10,405	10,650	2.4	33,926	27,350	-19.4
自動車	34,003	41,612	22.4	97,866	112,196	14.6
造船・輸送用機械	5,069	8,922	76.0	21,032	16,827	-20.0
精密機械	5,487	10,391	89.4	14,497	20,139	38.9
その他製造業	4,157	5,998	44.3	16,496	12,064	-26.9
官公需・学校	284	69	-75.7	388	1,183	204.9
商社・代理店	4,757	7,835	64.7	25,209	17,856	-29.2
その他	0	0	-	5,566	0	-
内 需 合 計	94,315	126,352	34.0	309,672	298,132	-3.7
外 需	140,726	188,883	34.2	474,163	486,102	2.5
総 合 計	235,041	315,235	34.1	783,835	784,234	0.1

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別受注(2025.3)

(単位：百万ウォン)

機 種	2025.2	2025.3	前月比(%)	2024.1-3	2025.1-3	前年同期比(%)
N C 小 合 計	229,895	305,287	32.8	767,685	764,961	-0.4
NC旋盤	100,860	156,716	55.4	370,800	360,790	-2.7
マシニングセンタ	90,245	111,478	23.5	269,205	286,542	6.4
NCフライス盤	308	1,137	269.2	660	1,445	118.9
NC専用機	20,798	22,475	8.1	68,266	67,256	-1.5
NC中ぐり盤	8,942	7,162	-19.9	21,140	25,594	21.1
NCその他の工作機械	6,042	4,630	-23.4	23,282	16,512	-29.1
非 N C 小 合 計	3,733	7,538	101.9	8,520	13,660	60.3
旋盤	1,133	2,476	118.5	2,769	4,630	67.2
フライス盤	753	3,106	312.5	2,541	4,452	75.2
ボール盤	0	139	-	138	139	0.7
研削盤	1,847	1,817	-1.6	2,977	4,439	49.1
専用機	0	0	-	0	0	-
その他の工作機械	0	0	-	20	0	-
金 属 切 削 型	233,628	312,825	33.9	776,205	778,621	0.3
金 属 成 形 型	1,413	2,410	70.6	7,630	5,613	-26.4
総 合 計	235,041	315,235	34.1	783,835	784,234	0.1

出所：韓国工作機械産業協会

○生産(2025年3月)

韓国工作機械生産&出荷統計(2025年3月)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2025.2	2025.3	前月比(%)	2024.1-3	2025.1-3	前年同期比(%)
N C 小 合 計	157,458	206,401	31.1	572,023	487,911	-14.7
NC旋盤	71,938	92,105	28.0	277,214	230,061	-17.0
マシニングセンタ	55,988	71,984	28.6	178,795	159,676	-10.7
NCフライス盤	288	0	-	460	288	-37.4
NC専用機	20,927	29,888	42.8	69,305	68,870	-0.6
NC中ぐり盤	1,535	3,949	157.3	15,534	8,274	-46.7
NCその他	5,261	4,648	-11.7	22,839	13,097	-42.7
非 N C 小 合 計	2,558	2,218	-13.3	12,363	6,700	-45.8
旋盤	291	176	-39.5	5,273	611	-88.4
フライス盤	950	1,187	24.9	2,582	2,789	8.0
ボール盤	440	259	-41.1	1,065	907	-14.8
研削盤	877	596	-32.0	2,538	2,003	-21.1
専用機	0	0	-	830	390	-53.0
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	160,016	208,619	30.4	584,386	494,611	-15.4
金 属 成 形 型 合 計	17,238	15,084	-12.5	49,814	49,229	-1.2
総 合 計	177,254	223,703	26.2	634,200	543,840	-14.2

出所：韓国工作機械産業協会

○出荷(2025.3)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2025.2	2025.3	前月比(%)	2024.1-3	2025.1-3	前年同期比(%)
N C 小 合 計	192,369	300,441	56.2	684,781	626,548	-8.5
NC旋盤	88,493	153,058	73.0	346,923	314,135	-9.5
マシニングセンタ	73,611	101,908	38.4	218,553	206,806	-5.4
NCフライス盤	288	0	-	460	288	-37.4
NC専用機	20,927	29,978	43.3	69,305	68,960	-0.5
NC中ぐり盤	2,608	7,140	173.8	20,748	15,570	-25.0
NCその他	4,921	4,530	-7.9	20,916	13,144	-37.2
非 N C 小 合 計	3,975	4,014	1.0	12,101	11,046	-8.7
旋盤	1,611	1,803	11.9	5,075	4,535	-10.6
フライス盤	993	1,250	25.9	2,443	2,925	19.7
ボール盤	308	317	2.9	1,004	959	-4.5
研削盤	1,063	644	-39.4	2,650	2,237	-15.6
専用機	0	0	-	830	390	-53.0
その他	0	0	-	24	0	-
金 属 切 削 型 合 計	196,344	304,455	55.1	696,882	637,594	-8.5
金 属 成 形 型 合 計	1,073	1,582	47.4	3,809	4,168	9.4
総 合 計	197,417	306,037	55.0	700,691	641,762	-8.4

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別輸出(2025.3) 韓国工作機械輸出統計(2025年3月) (単位：千USドル)

機種別	2025.2	2025.3	前月比(%)	2024.1-3	2025.1-3	前年同期比(%)
N C 小 合 計	127,388	147,203	15.6	445,814	388,700	-12.8
NC旋盤	61,752	74,364	20.4	215,494	189,175	-12.2
マシニングセンタ	39,478	42,109	6.7	111,607	123,635	10.8
NCフライス盤	1,673	983	-41.2	5,122	3,727	-27.2
NC専用機	0	0	-	18,026	3	-100.0
NC中ぐり盤	2,692	3,354	24.6	16,649	9,172	-44.9
レーザ加工機	16,088	19,377	20.4	58,254	46,571	-20.1
NCその他	2,964	3,971	34.0	7,967	8,358	4.9
非 N C 小 合 計	11,281	10,468	-7.2	36,028	26,604	-26.2
旋盤	327	1,073	228.5	4,994	1,517	-69.6
フライス盤	570	916	60.8	1,546	2,628	70.0
ボール盤	372	309	-16.8	1,108	1,167	5.3
研削盤	643	1,121	74.3	3,312	2,108	-36.3
専用機	171	1	-99.7	94	171	81.9
その他	4,446	6,034	35.7	14,752	12,456	-15.6
金 属 切 削 型 合 計	138,669	157,671	13.7	481,842	415,304	-13.8
金 属 成 形 型 合 計	43,815	43,486	-0.8	141,767	125,950	-11.2
総 合 計	182,483	201,157	10.2	623,609	541,254	-13.2

出所：韓国通関局

○仕向け国別輸出(2025.1-3) (単位：千USドル)

機種別	アジア	中国	インド	アメリカ	欧州	ドイツ	トルコ
NC小合計	113,246	34,734	25,350	122,653	106,428	38,082	31,772
NC旋盤	40,630	13,849	13,279	58,526	72,676	26,015	25,008
マシニングセンタ	29,367	8,968	9,376	49,781	28,595	9,992	6,697
NCフライス盤	2,146	1,307	276	272	290	68	0
NC専用機	0	0	0	3	0	0	0
NC中ぐり盤	4,427	2,197	921	4,059	685	323	0
レーザ加工機	27,245	4,634	790	5,571	2,572	520	0
NCその他	2,112	237	328	4,185	1,305	1,093	0
非NC小合計	9,986	2,440	1,518	5,724	6,384	140	437
旋盤	268	0	131	126	784	31	38
フライス盤	1,249	322	516	847	237	3	81
ボール盤	806	0	353	17	104	85	0
研削盤	1,035	378	68	603	197	0	195
専用機	171	171	1	0	0	0	0
その他	4,765	1,181	388	3,989	591	7	13
金 属 切 削 型 合 計	123,232	37,174	26,888	128,377	112,812	38,222	32,209
金 属 成 形 型 合 計	41,555	8,162	18,308	52,246	15,214	1,530	1,110
総 合 計	164,787	45,336	45,176	180,624	128,027	39,752	33,320

出所：韓国通関局

○機種別輸入(2025.3) 韓国工作機械輸入統計(2025年3月) (単位：千USドル)

機 種 別	2025.2	2025.3	前月比(%)	2024.1-3	2025.1-3	前年同期比(%)
N C 小 合 計	46,548	56,594	21.6	156,338	139,610	-10.7
NC旋盤	7,478	7,080	-5.3	26,474	17,605	-33.5
マシニングセンタ	7,615	12,764	67.6	33,971	28,262	-16.8
NCフライス盤	73	184	151.7	2,118	309	-85.4
NC専用機	1,474	1	-100.0	0	1,475	-
NC中ぐり盤	465	4,454	858.2	1,885	5,272	179.6
レーザ加工機	17,201	17,061	-0.8	58,199	51,415	-11.7
NCその他	567	1,140	101.1	3,644	1,939	-46.8
非 N C 小 合 計	6,701	8,456	26.2	22,415	20,230	-9.7
旋盤	272	256	-5.9	2,328	1,286	-44.8
フライス盤	161	161	-0.4	2,659	613	-76.9
ボール盤	207	314	52.0	2,242	835	-62.8
研削盤	1,464	1,569	7.2	3,209	4,010	24.9
専用機	0	28	-	16	30	86.5
その他	3,114	3,572	14.7	4,878	7,282	49.3
金 属 切 削 型 合 計	53,249	65,050	22.2	178,753	159,840	-10.6
金 属 成 形 型 合 計	14,903	9,860	-33.8	51,844	42,040	-18.9
総 合 計	68,152	74,910	9.9	230,597	201,880	-12.5

出所：韓国通関局

○輸入国別(2025.1-3)

(単位：千USドル)

機種別	アジア	日本	台湾	米国	欧州	ドイツ	イタリア
N C 小 合 計	102,938	53,881	3,301	8,252	28,052	14,199	6,593
NC旋盤	16,550	13,106	0	0	1,055	0	0
マシニングセンタ	23,897	17,939	1,640	451	3,914	3,792	0
NCフライス盤	260	53	0	0	48	2	20
NC専用機	1	0	0	0	1,474	0	1,474
NC中ぐり盤	818	789	0	0	4,454	0	4,454
レーザ加工機	43,207	13,885	86	1,358	6,849	4,279	561
NCその他	786	460	11	960	171	94	23
非 N C 小 合 計	12,044	4,700	2,145	995	7,168	5,452	103
旋盤	1,280	717	14	0	5	5	0
フライス盤	262	10	20	0	351	103	82
ボール盤	741	31	371	0	70	28	0
研削盤	3,848	2,065	1,226	31	130	2	4
専用機	2	0	0	28	0	0	0
その他	2,248	876	92	643	4,390	3,536	0
金 属 切 削 型	114,982	58,581	5,446	9,247	35,220	19,651	6,696
金 属 成 形 型	23,189	9,700	376	1,582	17,265	7,854	1,926
総 合 計	138,171	68,281	5,822	10,829	52,484	27,504	8,622

出所：韓国通関局

◆ドイツ工作機械主要統計(2025年第1四半期)

	金額(百万ユーロ)						前年比(%)		
	2021	2022	2023	2024	2024 1Q	2025 1Q	2023	2024	2025
生産合計	12,805	14,116	15,384	14,757	3,364	3,177	+9	-4	-6
機械合計	8,918	9,745	10,645	10,308	2,298	2,121	+9	-3	-8
切削型	6,576	7,432	8,330	7,937	1,832	1,725	+12	-5	-6
成型型	2,341	2,313	2,315	2,371	466	396	+0	+2	-15
部品・付属品	2,610	2,986	3,192	2,909	719	696	+7	-9	-3
設置・修理・メンテナンス	1,277	1,386	1,547	1,540	348	360	+12	-0	+4
受注額	13,580	15,800	14,130	11,380	3,195	2,865	-11	-19	-10
内需	3,940	4,640	3,970	3,620	1,140	800	-14	-9	-30
外需	9,640	11,160	10,160	7,760	2,055	2,065	-9	-24	+0
生産額(サービス除く)	11,528	12,730	13,837	13,217	3,016	2,817	+9	-4	-7
輸出	8,013	8,770	9,757	9,348	2,221	2,078	+11	-4	-6
国内販売	3,515	3,960	4,079	3,869	795	739	+3	-5	-7
輸入	2,959	3,661	3,741	3,102	760	721	+2	-17	-5
国内消費	6,474	7,621	7,821	6,971	1,555	1,461	+3	-11	-6
輸出比率(%)	69.5	68.9	70.5	70.7	73.6	73.8			
輸入比率(%)	45.7	48.0	47.8	44.5	48.9	49.4			
従業員数(年平均)	64,871	64,264	65,197	65,523	65,589	65,854	+1.5	+0.5	+0.4
(3月)	298	286	277	276	276	276	-3.2	-0.2	+0.0
稼働率(年平均)	80.8	87.7	89.6	81.7	84.7	76.8	+1.9	-7.9	-4.9
(4月)					83.4	77.4			

出所：出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械生産統計(2024年1Q)

	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		シェア(%)	
	2020	2021	2022	2023	2024	2023/2022	2024/2023	2023	2024
工作機械総合計	12,111.3	12,805.3	14,116.0	15,383.6	1,4756.8	9	-4	100.0	100.0
金属切削型合計	6,454.3	6,456.4	7,188.9	8,036.7	7,714.6	12	-4	52.2	52.3
レーザー加工機、放電加工機、超音波加工機	611.3	816.2	834.5	968.1	890.4	16	-8	6.3	6.0
マシニングセンタ	1,498.9	1,734.2	2,162.2	2,319.5	2,071.4	7	-11	15.1	14.0
トランスファーマシン	1,019.1	410.0	173.9	180.8	285.4	4	58	1.2	1.9
旋盤	939.9	967.2	1,096.9	1,245.0	1,141.4	14	-8	8.1	7.7
ボール盤、中ぐり盤、中ぐりフライス盤	145.0	161.8	171.9	160.4	137.2	-9	-15	1.0	0.9
フライス盤	774.6	860.6	946.1	1,085.5	1,041.2	15	-4	7.1	7.1
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	847.7	820.3	969.5	1,108.3	1,101.8	14	-1	7.2	7.5
歯切り盤	382.7	440.8	570.3	647.3	741.4	14	15	4.2	5.0
金切り盤及び切断機	172.0	185.4	204.8	246.8	222.5	21	-10	1.6	1.5
その他の工作機械	63.1	60.1	58.6	75.0	82.0	28	9	0.5	0.6
金属成形型合計	2,135.8	2,341.4	2,312.7	2,315.2	2,371.3	0	2	15.0	16.1
アディティブマニファクチャリング	148.2	120.0	243.0	292.9	222.3	21	-24	1.9	1.5
工作機械用部品	2,219.6	2,610.5	2,985.6	3,191.8	2,908.7	7	-9	20.8	19.7
工作機械の設置、修理、メンテナンス	1,153.4	1,276.9	1,385.8	1,547.1	1,539.9	12	-1	10.1	10.4

出所：出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械国別輸出統計(2024年第1四半期)

(金額単位：百万ユーロ)

国別	2023	2024	2025 1Q	% 24/23	% 25/24	% 2024	% 2025
合計	8,017.4	7,704.3	1,685.3	-4	-6	100.0	100.0
1. 米国	1,207.3	1,459.0	329.3	21	3	18.9	19.5
2. 中国	1,405.2	1,305.9	288.2	-7	-6	17.0	17.1
3. イタリア	540.8	326.1	95.2	-40	31	4.2	5.6
4. インド	216.7	274.6	81.0	27	18	3.6	4.8
5. メキシコ	277.1	246.0	67.5	-11	-8	3.2	4.0
6. ポーランド	351.8	256.2	57.7	-27	-16	3.3	3.4
7. オランダ	217.1	156.1	50.4	-28	35	2.0	3.0
8. オーストリア	326.3	228.2	47.9	-30	-19	3.0	2.8
9. フランス	369.5	325.7	46.0	-12	-46	4.2	2.7
10. トルコ	302.4	224.0	45.4	-26	-17	2.9	2.7
11. スイス	273.8	266.9	44.5	-3	-32	3.5	2.6
12. チェコ	233.9	214.7	42.7	-8	-24	2.8	2.5
13. スウェーデン	145.3	132.2	31.8	-9	0	1.7	1.9
14. サウジアラビア	17.2	36.1	31.6	109	425	0.5	1.9
15. スペイン	188.5	196.3	31.3	4	-28	2.5	1.9
16. ハンガリー	140.4	212.9	29.0	52	-25	2.8	1.7
17. 日本	149.9	149.8	28.9	0	-10	1.9	1.7
18. 韓国	101.6	123.7	28.5	22	-5	1.6	1.7
19. 英国	204.9	192.0	28.3	-6	-41	2.5	1.7
20. カナダ	76.8	98.8	23.2	29	65	1.3	1.4
21. スロバキア	86.3	79.5	22.3	-8	42	1.0	1.3
22. ポルトガル	56.8	51.4	19.7	-9	142	0.7	1.2
23. ルーマニア	93.6	68.0	17.4	-27	36	0.9	1.0
24. ベルギー	100.4	88.1	17.4	-12	-45	1.1	1.0
25. ブラジル	67.4	97.1	17.2	44	-47	1.3	1.0
26. オーストラリア	36.8	38.3	10.8	4	-21	0.5	0.6
27. デンマーク	63.2	56.8	10.8	-10	-37	0.7	0.6
28. ウクライナ	28.9	37.2	9.8	29	25	0.5	0.6
29. フィンランド	59.6	37.8	9.6	-37	16	0.5	0.6
30. 台湾	42.0	45.2	9.4	8	15	0.6	0.6

出所：連邦統計局、VDMA、VDW

ドイツ工作機械国別輸入統計(2024年第1-2四半期)

(金額単位：百万ユーロ)

国 別	2023	2024	2025 1Q	% 24/23	% 25/24	% 2024	% 2025
合 計	2,722.2	2,240.3	509.6	-18	-5	100.0	100.0
1. ス イ ス	748.3	635.5	120.3	-15	-24	28.4	23.6
2. 中 国	173.7	146.6	60.6	-16	58	6.5	11.9
3. イ タ リ ア	220.0	196.9	51.3	-11	39	8.8	10.1
4. 日 本	343.2	279.0	47.4	-19	-34	12.5	9.3
5. 韓 国	180.4	137.9	36.7	-24	44	6.2	7.2
6. オーストリア	148.1	138.1	27.0	-7	-29	6.2	5.3
7. 米 国	82.8	51.8	20.1	-37	10	2.3	3.9
8. チ ェ コ	111.1	104.6	18.0	-6	-40	4.7	3.5
9. ス ペ イ ン	88.6	73.9	17.8	-17	81	3.3	3.5
10. 台 湾	106.8	81.5	15.3	-24	-10	3.6	3.0
11. 英 国	67.6	56.4	13.1	-17	13	2.5	2.6
12. フ ラ ン ス	40.2	37.4	10.2	-7	25	1.7	2.0
13. オ ラ ン ダ	19.9	19.5	9.5	-2	156	0.9	1.9
14. ス ロ バ キ ア	42.7	39.4	9.0	-8	13	1.8	1.8
15. ブ ラ ジ ル	46.0	11.7	8.5	-75	50	0.5	1.7
16. ポ ー ラ ン ド	64.9	38.0	8.0	-41	-45	1.7	1.6
17. ブ ル ガ リ ア	25.8	24.0	7.9	-7	43	1.1	1.6
18. ト ル コ	49.8	37.1	5.4	-26	-56	1.7	1.1
19. タ イ	24.4	15.6	4.1	-36	25	0.7	0.8
20. スウェーデン	25.7	11.5	2.8	-56	-25	0.5	0.5
21. ス ロ ベ ニ ア	10.2	8.4	2.0	-18	-10	0.4	0.4
22. デ ン マ ー ク	4.1	3.6	1.9	-14	113	0.2	0.4
23. シ ン ガ ポ ー ル	24.5	12.5	1.7	-49	-49	0.6	0.3
24. ハ ン ガ リ ー	2.7	6.2	1.5	128	-4	0.3	0.3
25. ベ ル ギ ー	17.6	18.4	1.3	5	25	0.8	0.3
26. イ ン ド	5.8	6.3	1.2	9	6	0.3	0.2
27. フィンランド	12.5	9.2	1.0	-27	-16	0.4	0.2
28. ク ロ ア チ ア	4.1	4.4	0.9	7	52	0.2	0.2
29. ポ ル ト ガ ル	5.0	2.2	0.7	-56	-8	0.1	0.1
30. オーストラリア	9.4	8.4	0.6	-11	-61	0.4	0.1

出所：連邦統計局、VDMA、VDW

ドイツ工作機械機種別輸出統計(2025年第1四半期)

	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		シェア(%)	
	2021	2022	2023	2024	2025 1-3	2024/2023	2025/2024	2024	2025
工作機械総合計	8,013.3	8,770.4	9,757.2	9,347.7	2,077.5	-4	-7	100.0	100.0
金属切削型合計	5,161.3	5,693.1	6,313.1	5,899.9	1,248.8	-7	-9	63.1	60.1
特殊加工機	1,024.4	1,195.3	1,269.4	1,077.3	243.7	-15	-10	11.5	11.7
マシニングセンタ	1,520.9	1,691.4	1,917.5	1,665.4	394.4	-13	0	17.8	19.0
トランスファーマシン	126.8	102.4	141.9	135.2	30.6	-5	35	1.4	1.5
旋盤	740.6	766.8	781.7	794.5	121.7	2	-25	8.5	5.9
ボール盤、中ぐり盤、中ぐりフライス盤	170.5	172.3	222.3	182.2	47.3	-18	19	1.9	2.3
フライス盤	291.3	311.7	302.6	278.8	70.4	-8	0	3.0	3.4
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	700.4	759.0	893.7	889.9	162.2	0	-15	9.5	7.8
歯切り盤	371.7	486.8	547.7	602.2	136.9	10	-9	6.4	6.6
金切り盤及び切断機	137.6	147.5	168.4	178.7	31.4	6	-27	1.9	1.5
その他の工作機械	77.1	59.8	67.9	95.6	10.3	41	-50	1.0	0.5
金属成形型合計	1,392.5	1,288.8	1,511.4	1536.4	379.3	2	0	16.4	18.3
アディティブマニュファクチャリング	-	212.0	192.9	267.9	57.1	39	-2	2.9	2.8
工作機械用部品	1,459.5	1,576.5	1,739.8	1643.4	392.3	-6	-7	17.6	18.9

出所：出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械輸入統計(2024年第1四半期)

	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		シェア(%)	
	2021	2022	2023	2024	2025 1-3	2024/2023	2025/2024	2024	2025
工作機械総合計	2,958.5	3661.2	3,741.5	3,101.6	721.2	-17	-5	100.0	100.0
金属切削型合計	1,672.2	2183.1	2,196.2	1,786.8	392.0	-19	-6	57.6	54.4
特殊加工機	495.7	581.2	597.5	435.7	108.3	-27	4	14.0	15.0
マシニングセンタ	263.5	414.3	436.9	324.9	79.9	-26	-9	10.5	11.1
トランスファーマシン	41.0	67.3	42.1	45.4	1.3	8	-90	1.5	0.2
旋盤	384.4	546.6	535.8	432.2	90.5	-19	-3	13.9	12.5
ボール盤、中ぐり盤、中ぐりフライス盤	77.8	104.9	78.6	77.9	17.7	-1	45	2.5	2.5
フライス盤	64.2	74.1	65.1	70.2	16.2	8	16	2.3	2.2
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	265.2	290.8	327.1	300.0	57.1	-8	-14	9.7	7.9
歯切り盤	27.0	43.5	51.7	46.6	5.3	-10	-55	1.5	0.7
金切り盤及び切断機	43.0	49.3	51.3	44.1	12.4	-14	-2	1.4	1.7
その他の工作機械	10.6	11.1	10.1	9.7	3.4	-4	31	0.3	0.5
金属成形型合計	429.6	476.6	509.2	427.5	112.4	-16	-1	13.8	15.6
アディティブマニュファクチャリング	-	8.9	16.8	26.0	5.2	54.4	6	0.8	0.7
工作機械用部品	856.8	992.5	1,019.3	861.3	211.5	-16	-5	27.8	29.3

出所：出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

◆中国の工作機械輸入動向（4月）

2025年4月の工作機械輸入額は約4億8,658万ドル。

(単位：百万ドル)

	2024年		2025年			
	11月	12月	1月	2月	3月	4月
日 本	153.5	203.3	128.6	129.5	203.7	236.9
ド イ ツ	89.9	97.5	101.4	103.6	82.4	105.9
台 湾	44.4	51.4	33.4	22.5	33.8	38.8
ス イ ス	30.2	18.8	27.8	21.3	29.1	22.4
韓 国	13.7	22.6	10.4	6.8	8.8	18.9
シンガポール	5.5	26.9	13.8	8.8	20.6	18.5
イ タ リ ア	18.3	19.4	17.8	17.6	10.3	11.7
そ の 他	49.2	54.6	24.9	42.3	36.9	33.6
全 輸 入 額	404.6	494.7	358.0	352.4	425.7	486.6

出所：ジェトロ

◆インド工作機械輸入統計（3月）

2025年3月の工作機械輸入額は約1億7,215万ドル。

(単位：百万ドル)

	2024年			2025年		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日 本	27.1	23.3	29.8	38.3	26.4	76.5
中 国	22.7	28.9	31.8	32.8	22.0	27.7
ド イ ツ	20.1	13.7	20.6	16.1	19.7	15.0
台 湾	9.0	5.4	8.4	15.2	9.0	11.7
韓 国	8.9	17.1	8.9	18.5	8.8	7.4
米 国	5.3	4.5	11.7	9.1	5.9	4.7
イ タ リ ア	13.2	7.8	7.5	7.4	4.7	4.4
そ の 他	30.6	22.3	32.5	29.6	26.3	24.7
全 輸 入 額	136.9	123.0	151.1	167.0	122.7	172.2

出所：ジェトロ

2. 主要国・地域経済動向

◆米国：PMI 48.5%（5月）

米サプライ・マネジメント協会(ISM)の購買管理指数(PMI：製造業350社以上のアンケート調査に基づく月次景況指数)の2025年5月の調査結果について、ISMは次のようにコメントしている。製造業の経済活動は、2か月間の拡大の後26か月連続の縮小となり、5月も3か月連続で縮小した。

「製造業PMI®は5月に48.5%となり、4月の48.7%から0.2%低下した。経済全体は、2020年4月に1ヶ月間の縮小を記録した後、61ヶ月連続で拡大を続けた。(製造業PMI®が一定期間にわたって42.3%を超える場合、一般的に経済全体の拡大を示している。)新規受注指数は、3ヶ月連続の拡大の後、4ヶ月連続で縮小した。47.6%は、4月の47.2%から0.4%上昇した。5月の生産指数(45.4%)は、4月の44%から1.4%上昇した。2ヶ月間の拡大の後、8ヶ月間の縮小の後、3ヶ月連続で縮小した。」

「米国の製造業活動は、2月にわずかに拡大した後、5月にさらに縮小に転じました。需要と生産を測る指標のほとんどで縮小が鈍化し、一方で投入は弱まり始めている。

需要指標はまちまちで、新規受注と受注残指数の

縮小率は鈍化した一方、顧客在庫指数と新規輸出受注指数はより大幅な縮小となった。しかし、顧客在庫指数が「低すぎる」状態にあることは、通常、将来の生産にとってプラス要因とみなされる。

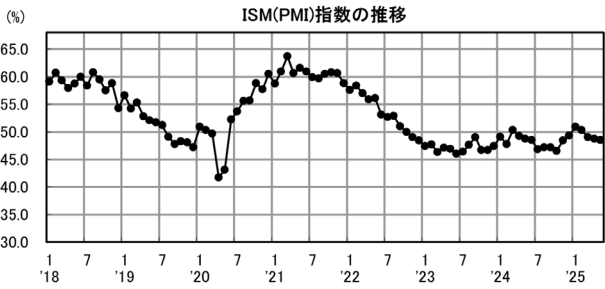
生産に関しては、生産指数は前月の警戒すべき低水準から上昇したが、工場生産は5月も引き続き縮小しており、経済の不確実性の中で、パネリストの企業が依然として生産計画を下方修正していることを示唆している。雇用指数は2ヶ月連続で上昇したが、人員削減が続いたため、依然として縮小傾向にある。企業は一般的に、人員削減よりも迅速に実施できるため、レイオフを選択した。」

5月に成長を報告した製造業7業種は、プラスチック・ゴム製品、非金属鉱物製品、石油・石炭製品、家具・関連製品、電気機器・部品、金属加工製品、機械。

ISMが発表した5月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項 目	2025年5月指数(%)	2025年4月指数(%)	備 考
ISM 指数(PMI)	48.5	48.7	前月比0.2ポイント減。PMIが48.7%を上回ると製造業の拡大を示唆。
新 規 受 注	47.6	47.2	前月比0.4ポイント増。拡大の基準は52.1である。8業種が増加を報告した。
生 産	45.4	44.0	前月比1.4ポイント増。拡大の基準は、52.1である。7業種が増加を報告。
雇 用	46.8	46.5	前月比0.3ポイント増。5業種が増加を報告した。
入 荷 遅 延	56.1	55.2	前月比0.9ポイント増。長期化の基準は、50以上。18業種中10業種が長期化を報告した。
在 庫	46.7	50.8	前月比4.1ポイント減。拡大の基準44.4ポイントを上回った。5業種が在庫増を報告した。
顧 客 在 庫	44.5	46.2	前月比1.7ポイント減。2業種が増加を報告した。
仕 入 れ 価 格	69.4	69.8	前月比0.4ポイント減。15業種が増加を報告した。
受 注 残	47.1	43.7	前月比3.4ポイント増。5業種が増加を報告した。
輸 出 受 注	40.1	43.1	前月比3.0ポイント減。増加を報告した業種なし。
原 材 料 輸 入	39.9	47.1	前月比7.2ポイント減。6業種が増加を報告。

※データは季節修正値



(ISM Manufacturing Report on Business 2025年6月2日付)

◆中国製造業 PMI 49.5%（5月）

5月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)は49.5%となり、前月比0.5ポイント上昇し、製造業の景況感の改善を示した。

企業規模別に見ると、大企業PMIは50.7%で前月比1.5ポイント上昇し、基準値を上回った。中規模企業PMIは47.5%で前月比1.3ポイント低下し、基準値を下回った。小規模企業PMIは49.3%で前月比0.6ポイント上昇し、基準値を下回った。

製造業PMIを構成する5つのサブ指数のうち、生産指数は基準値を上回り、サプライヤー納期指数は基準値に達した一方、新規受注指数、原材料在庫指数、雇用指数は基準値を下回った。

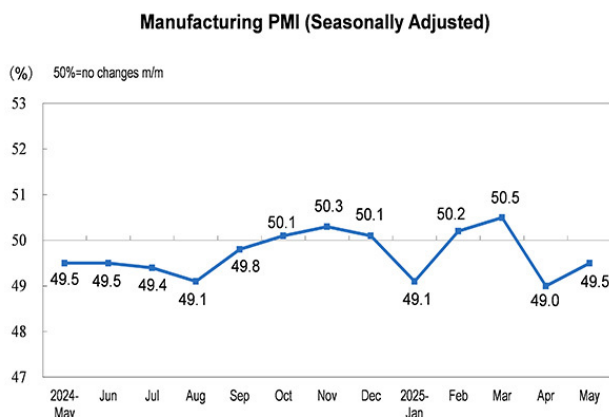
生産指数は50.7%で、前月比0.9ポイント上昇し、基準値を上回り、製造業企業の生産活動が加速していることを示している。

新規受注指数は49.8%で、前月比0.6ポイント上昇し、製造業市場の需要環境が持ち直していることを示している。

原材料在庫指数は47.4%で、前月比0.4ポイント上昇し、基準値を下回り、製造業における主要原材料の在庫の減少幅が縮小していることを示している。

雇用指数は48.1%で、前月比0.2ポイント上昇し、製造業企業の雇用環境が改善していることを示している。

サプライヤー納期指数は閾値で50.0%となり、前月比0.2ポイント低下し、製造業における原材料サプライヤーへの納期は前月とほぼ横ばいとなった。



(Bureau of Statistics of China 2025年6月1日)

◆米国通商動向：米政府、EDA ソフトウェアの輸出規制拡大

米国政府は、中国への電子設計自動化(EDA)ソフトウェアの輸出規制を拡大し、米国企業に対し、中国企業へのEDAソフトウェアの販売を全面的に停止するよう指示した。これは、GAAFET(ゲートオールアラウンド電界効果トランジスタ)などの先進半導体アーキテクチャの設計に使用されるEDAツールのみを対象としていた従来の措置を拡大したものである。新たな指令は、用途を問わず、EDA製品全般を対象としている。

この規制拡大の結果、ケイデンス・デザイン・システムズやシノプシスを含む米国の大手EDAソフトウェアベンダーは、本日付けで中国へのEDAソフトウェアの販売を全面的に停止した。これらのツールは半導体設計で広く使用されており、チップ開発の様々な段階で不可欠とされている。

同時に、米国政府はドイツ政府と協議を行い、ドイツに拠点を置くEDAソフトウェアベンダーであるシーメンスEDAが製造するEDAソフトウェアについても同様の輸出管理措置の導入を促している。米国当局は、ドイツに対し、シーメンスのEDA製品、特に高度な設計ツールの中国への輸出を制限するライセンス枠組みを導入するよう要請した。現在、ドイツはシーメンスの最先端EDA製品のみに制限を設けており、より広範な輸出停止については最終決定を下していない。

これらの動きは、中国への半導体関連技術の移転を規制することを目的とした、より広範な政策措置の一環である。ドイツを含む国際パートナーとの継続的な協議の結果は、これらの規制のより広範な実施と影響を左右するであろう。

(Global USA 2025年5月29日付)

◆米国通商動向：BIS が Huawei の Ascend チップに関するガイダンスを更新

米国商務省産業安全保障局(BIS)は、HuaweiのAscendチップに関する公開ガイダンスを更新し、「世界中のどこでも」使用すれば米国の輸出管理規則に違反するとして以前の文言を削除した。

当初のガイダンスでは、HuaweiのAscendチップの世界的な使用は米国の輸出法に直接違反すると示されていた。しかし、改訂版では、業界関係者に対し、特定のHuawei Ascendチップを含む、中華人民共和国で製造された先進的なコンピューティング集積回路(IC)の使用に伴うリスクについて助言する内容となっている。

上海を拠点とするメディアGuancha.cnが最初に報じたこの改訂は、Huaweiチップの使用が及ぼす世界的な法的影響に関するBISの解釈の変化を示唆しているようである。この変更は、米国の輸出規制の域外適用に関する従来の主張を和らげるものとなる。

改訂された文言は、トランプ政権が輸出管理体制の執行と主要な湾岸同盟国および西側諸国の半導体企業の利益のバランスを取ろうとする取り組みを反映している可能性がある。改訂されたガイダンスは、現行規制の下で許容される活動について、より柔軟な解釈を可能にする可能性がある。

既にHuawei取引に関連する執行措置の対象となっているTSMCや、シンガポール経由の積み替え業務に大きく依存しているNVIDIAなどの企業は、改訂された条件を前向きな展開と捉える可能性が高いでしょう。

(Global USA 2025年6月1日付)

◆米国通商動向：エンティティリストへの追加可能性について

トランプ政権は、複数の中国半導体企業を米国の輸出ブラックリストに追加することを検討している。しかし、内部協議では当局者の間で意見の相違が明らかになり、中国との包括的な貿易協定締結に向けた努力を阻害しないよう、追加を延期すべきだという意見も出ている。

商務省は、メモリチップメーカーの長鑫メモリテクノロジーズ(CXMT)を含む中国企業のリストを、産業安全保障局(BIS)のエンティティリストへの追加候補としてまとめた。リスト案には、中国最大の半導体ファウンドリーである国際集成回路製造(SMIC)と、主要メモリチップメーカーである長江メモリテクノロジーズ(YMTC)の子会社も含まれている。SMICとYMTCはいずれも既にエンティティリストに指定されている。

指定提案のタイミングは、週末にジュネーブで暫定貿易協定が締結されたことで複雑化している。この協定に基づき、米国と中国は、より広範な貿易協定に向けた信頼醸成措置として、相互に90日間関税を削減することで合意した。一部の政権当局者は、主要な中国企業に対する追加的な輸出規制が、現在進行中の交渉を危うくする可能性があるかと懸念を表明している。

一方で、他の当局者は、バイデン政権が外交を口実に中国への対応を躊躇しているとの過去の批判を引用し、執行措置の遅延は過去の政策の失敗を繰り返すことになる」と主張する。ブラックリスト拡大の支持者、特に対中政策をより強硬に推進する立場にある人々は、CXMTが世界的なDRAMメモリチップ分野で急速に事業を拡大し、人工知能システムに不可欠な高帯域幅メモリ(HBM)の開発に取り組んでいることから、長年同社を標的にしてきた。

指定提案は、中国の軍事力近代化を支援する可能性がある」とされる、高度な米国製半導体技術と製造ツールへの中国のアクセスを制限しようとする米国の継続的な取り組みを反映している。ご存知のとおり、エンティティリストに掲載された企業は、政府発行のライセンス(通常は取得が困難)がなければ米国からの輸出品を受け取ることができない。国家安全保障当局は、中国の企業が極超音速兵器や核シミュレーションプログラムを含む高度な軍事力の開発に貢献する米国の機密技術を手に入れているのではないかと懸念を表明している。

(Global USA 2025年6月1日)

◆米国通商動向：ユニツリー社の軍民融合への関与

2025年5月6日、中国共産党(CCP)に関する下院特別委員会は、国防長官、商務長官、および連邦通信委員会(FCC)委員長宛てに超党派の書簡を送付し、中国杭州に拠点を置くロボットメーカー、ユニツリー・ロボティクス社に関連する国家安全保障上の懸念を概説した。書簡では、ユニツリー社が中国人民解放軍(PLA)および中国共産党と関係があると報じられている点を詳述し、同社の軍民融合プロジェクトへの関与や政府支援による投資の受領について言及している。委員会によると、ユニツリー社の四足歩行ロボット(カメラとセンサーを内蔵)は、州刑務所や一部の軍事施設など、米国内の機密性の高い環境に配備されている。

委員会は、これらのデバイスが監視機能やデータ転送機能を備えている可能性があり、特に「CloudSail」トンネルなどのリモートアクセス機能を通じて中国のサーバーにデータが送信される可能性があるため、セキュリティリスクにつながる可能性がある」と警告している。

これらのリスクを軽減するため、委員会は以下の勧告を発表した。

- 2021会計年度国防権限法第1260H条に基づき、Unitree Roboticsを中国の軍事企業に指定する。
- Unitreeを商務省のエンティティリストに追加し、米国企業への輸出および協力を制限する。
- UnitreeをFCCの対象企業リストに追加し、米国の通信インフラへの統合を禁止する。

Unitree Roboticsは、世界の四足歩行ロボット市場で大きなシェアを占めている。中国の投資会社Jam Tham Capitalのデータによると、2023年には販売台数の70%、市場全体の41%を占めると報告されている。

中国のロボット工学分野の発展に関する詳しい背景については、Unitreeの創設者兼CEOである王星星氏へのインタビューをご覧ください。

(Global USA 2025年6月1日)

◆ドイツ工作機械産業 国際プロジェクトが工作機械の受注水準を支える

第1四半期の主要顧客ランキングで、中国と米国が再び入れ替わる

2025年第1四半期のドイツ工作機械受注は、前年同期比で10%減少した。うち国内からの受注は30%減少したが、海外からの受注は前年並みであった。

「年初は概して低調であったが、3月にはわずかな希望の光が見えてきた」と、VDW（ドイツ工作機械工業会）専務理事のマルクス・ヘーリング博士は説明した。「受注は2%増加した。これは主に海外、特にユーロ圏からの需要による、当初の明るい兆候である。一方、ドイツ国内市場は依然として期待を大きく下回っている」とヘーリング博士は続ける。

第1四半期、ドイツ工作機械業界にとってヨーロッパは引き続き最大の販売市場であった。多くの主要国からの需要が顕著に増加した。全体として、この地域は低水準からではあるものの、ほぼ3分の1の成長を遂げた。

アジアの下降傾向も第1四半期に終止符を打った。6%増となり、この地域は初めてプラス成長に転じた。特に喜ばしいのは、中国が長らく低迷していた後に再びわずかな成長を記録したことである。これにより、中国は米国に代わり、最も重要な単一市場となった。

アメリカ大陸では、特にメキシコのプロジェクトがプラスの推進力となった。一方、米国からの受注は10分の1減少した。「しかし、何も変わっていない。米国産業界は近代化のためにドイツの製造技術を必要としており、適切な国内サプライヤーが不足している」とヘーリング氏は強調した。

2025年第1四半期に実施された工作機械・部品メーカーを対象とした経済調査によると、主要顧客産業の中で、医療技術と航空産業は最も需要が高いセクターであった。エンジニアリング業界全体にも回復の兆しが見られ、今年の第1四半期は好調な成長が見られた。自動車産業は依然として最大の懸念材料である。

「特に米国政権の不安定な関税政策による国際的な不確実性の高まりを考えると、トレンドの反転を語るには時期尚早だ」とヘーリング氏は結論付けた。ドイツ製造業界は、輸出規制や高コストに加え、この点を回復への最大の障害と見ている。

(VDW News Release 2025年5月21日付)

◆韓国製造業就業者、過去最低…産業の骨組みが揺れる

製造業の雇用が消えつつある。

韓国統計庁によると、今年1~4月の製造業就業者数は月平均439万5000人で、全体就業者の中で15.5%を占めた。関連統計を集計し始めた2013年以来、最も低い。

1990年代までは20%を上回っていた同数値は減り続け、15%台半ばまで下がった。20人の就業者のうち3人程度だけが製造業分野で働いているという意味だ。

製造業の「空」は保健・社会福祉サービス業と運輸・倉庫業の雇用が満たしている。高齢化と相まって保健業・社会福祉サービス業の割合は2013年6.2%から2024年10.3%に急上昇した。

コロナ禍以降、非対面デリバリーの需要が増えて運輸・倉庫業就業者の割合も5.6%から6.0%に大きくなった。介護・公共雇用、デリバリーライダーなどがここに含まれる。

問題は雇用の質だ。製造業は賃金が月400万ウォン（約41万円）以上の就業者が37.3%で、保健・社会福祉サービス業（9.7%）、運輸・倉庫業（27.4%）よりはるかに高い。

良質の雇用が減り、低賃金の雇用が増えているという意味だ。

半導体を中心に最近の景気が回復しているが、製造業の雇用市場には依然として冷え込んでいる。

韓国開発研究院(KDI)によると、半導体産業の就業誘発係数は2.1で、全体製造業平均(6.2)の3分の1に過ぎない。

就職誘発係数は10億ウォンの生産額が発生する時、直接・間接的に生じた就業者数を意味する。残りの製造業にも恩恵が与えられる必要があるが、内需回復の遅延と対外不確実性の拡大などが変数だ。

漢城(ハンソン)大学経済学科のキム・サンボン教授は「人工知能(AI)・ビッグデータなどが製造業の付加価値を拡大しているので雇用の減少を避けることはできないが、主力産業として製造業の重要性を見過ごせないだけに、技術開発人材を中心に投資を増やさなければならない」と分析した。

(中央日報 5月19日付)

出所：<https://japanese.joins.com/JArticle/333915?sectcode=300&servcode=300>

◆海外業界動向：東南アジア

先日、マレーシアで1週間を過ごし、同国の金属切削産業を視察した。この国の美しい自然と景観は魅力的でしたが、製造拠点と、AMTメンバーに提供される様々な機会にも同様に魅了された。

私の1週間は、「東洋のシリコンバレー」ペナンから始まった。1970年代以降、ペナンはインテル、AMD、ヒューレット・パッカードといったアメリカの大手半導体企業にとって、最初の海外拠点の一つとなってきた。ペナンは、この産業に数十億ドル規模の投資を受け続けている。その大部分は、ウエハ製造装置の高精度加工、自動化・ロボット工学、計測・検査、ウエハのダイシング・仕上げ、工具、消耗品などを扱う工作機械産業への投資だ。

最初の訪問先はペナン技能開発センター(PSDC)で、CEOのハリ・ナラヤナン博士と上級管理職の方々に歓迎していただいた。人口わずか180万人のペナン地域が、どのようにして世界有数の重要産業の一つで主要プレーヤーになれるのか、不思議に思われるかもしれない。この成功の基盤の一つは、PSDCが提供する研修である。この研修は、現地に製造拠点を持つ大手国際企業のトップ幹部で構成される経営協議会によって運営されている。参加企業の大部分は米国企業だ。

多くのAMT会員は、機械、工具、研修、ソフトウェアなどを含む共同プロジェクトを通じて、既にPSDCと関わっている。PSDCは、継続的なパートナーシップを通じて製造業に関する知識の向上を目指しており、AMTは関心のある会員の皆様への紹介や面談を喜んでお手伝いしたい。

次に、ペナン州政府の非営利団体であるInvestPenangに歓迎していただいた。InvestPenangは、ペナンへの新規投資の誘致と促進を担っている。マレーシアのGDPの24%を製造業が占めていることから、こうした投資の多くは当団体の会員企業にとって大きなチャンスとなる。主な投資対象は、電気・電子機器、医療機器、航空宇宙・アビオニクス、精密工学・機器である。

InvestPenangの最優先事項は、医療機器製造への都市の多角化だ。これは、スミス・ネフュー社が2022年に1億ドル規模の工場を開設し、デクスコム社が2024年に生産開始に向けて6億ドルを投資する計画からも明らかである。また、別の米国の医療関連企業が近々、新たな大規模投資を発表するという噂もある。

InvestPenangのキャッチフレーズは「投資、仕事、生活、遊び」である。もし私が次のフィールドマーケティング調査のためにクアラルンプールまで1時間のフライトを強いられなければ、今でもペナンの美しいビーチで冷たい飲み物を飲んでいるでしょう。

マレーシア最大の金属加工展示会「メタルテック」は、毎年5月にクアラルンプールで開催され、1万8000人以上の来場者を集めている。会場は、市内中心部の手頃な価格から高級五つ星ホテルまでわずか15分の距離にある、新しくて輝かしい展示センター「MITEC」だ。業界の現状を把握するには1～2日で十分です。英語も広く通じるため、来場者は直接情報を得ることができる。60社を超えるAMT会員企業が直接または販売パートナーを通じて参加し、経営陣の大半は地域出身者であった。

2025年初頭に開設されたジョホール・シンガポール経済特別区(JS-SEZ)は、成長の重要な原動力となるであろう。この開発の主要目標の一つは、製造業をシンガポールから海峡を越えてマレーシアへ移転させることである。シンガポールで製造業に従事する従業員の多くはマレーシア人だ。展示会で出会ったマレーシア人の一人はこう説明した。「私は毎日橋を渡ってシンガポールに渡る25万人のマレーシア人の一人です。JS-SEZは工場の効率性だけでなく、従業員の生活の質も大きく向上させるでしょう。」

これはまた、製造能力の拡大と向上に向けた多くの新たな投資を促進するであろう。

(AMT ONLINE 2025年5月27日付)

◆スイス製造技術産業：大きな下振れリスクを抱えながらも低迷

スイス製造技術産業の景気低迷は続いており、2025年第1四半期の売上高は2024年同時期と比較して3.0%減少した。新規受注は前年同期比で停滞した。主要指標は、今後数ヶ月間、景気低迷が続くことを示唆しており、大きな下振れリスクも存在する。米国が警告されている水準で関税を発動した場合、スイス製造技術業界は大きな打撃を受けるであろう。政府は早急に行動を起こす必要がある。メルコスール諸国との自由貿易協定は、可能な限り早期に締結する必要がある。また、短時間労働補償の最長期間を24ヶ月に延長する必要がある。さらに、保育所やAHVなどの社会保障制度の拡充のために、付随的な賃金コストを引き上げるべきではない。

輸出動向はまちまち

スイス製造技術産業の輸出は、2025年第1四半期に前年同期比0.7%の微増となり、170億スイスフランとなった。輸出動向は市場地域によって大きく異なった。トランプ政権による関税決定前には、米国への輸出は大幅に増加(+5.3%)し、EUへの輸出も緩やかな増加(+0.8%)を記録した。一方、アジアへの輸出は明らかに減少した(-6.6%)。主要製品グループの業績もまちまちであった。精密機器(+4.5%)と電気工学・電子工学(+1.4%)はともに輸出が増加した。一方、機械工学(-2.9%)と金属(-1.6%)は輸出が減少した。

重要な疑問：米国の動向は？

スイス製造技術産業は低迷を続けている。主要指標によると、この状況は今後数ヶ月で変化する見込みはなく、再び低迷する可能性も否定できない。例えば、製造業購買担当者景気指数(PMI)の数値は、世界のはほぼ全域で依然として成長の閾値を下回っている。Swissmem会員企業の見通しも同様に慎重で、今後12ヶ月で海外からの受注が増加すると見込む企業はわずか24%である。一方、受注の減少を見込む企業の割合は、2024年末以降7ポイント増加し、32%となった。残りの44%の企業は、受注レベルは横ばいになると見込んでいる。唯一、目立った勢いが期待できるのはインドからの受注であり、米国事業への期待は完全に崩壊している。Swissmem理事のシュテファン・ブルプバッハー氏は次のように述べている。「第1四半期の数字は期待外れだ。しかも、これには米国の10%の追加関税と31%の脅威

の影響すら含まれていない。地政学的な不確実性は依然として大きく、スイスのテクノロジー業界からの製品需要をさらに減少させている。下振れリスクは相当に大きい。」

現在、誰もがワシントン、そしてベルンに目を向けている。「スイスの外交努力により、米国との進行中の交渉において、関税の脅威を回避、あるいは少なくとも大幅に削減できることを期待している。そうでなければ、スイス製造技術産業は新規受注の減少、時短勤務の増加、人員削減を覚悟しなければならない」と、シュテファン・ブルプバッハー氏は付け加えた。

メルコスールとの自由貿易協定を今すぐ締結せよ！

経済的に困難な時期には、政治家は企業支援策を講じる必要がある。スイス製造技術産業にとって最優先事項は、最小限の障壁で世界市場へのアクセスを可能にすることである。スイス機械・電機工業会(Swissmem)のマーティン・ヒルツェル会長は、「保護主義の高まりを踏まえ、スイスは新たな自由貿易協定を締結し、既存の協定を改善する必要がある。現在、メルコスール諸国との協定が焦点となっており、早急に締結する必要がある」と訴える。EUも同様の協定を最近締結したばかりであるため、これはさらに重要である。「スイスが直ちにこれに追従できなければ、EUの競合国と比べて大きな不利を被ることになる」とヒルツェル会長は付け加える。

スイス製造技術産業の景気減速はすでに2年も続いているため、時短労働補償の最大期間を24か月に延長することも同様に重要である。「多くの企業は既に数か月前に時短労働を導入せざるを得なかった。回復の兆候がいつ見られるかはまだ予測できないため、この延長は不可欠だ。これにより、影響を受ける企業は計画の確実性を高め、人員削減を防ぐことができる。」

(Swissmem 2025年5月19日付)

◆海外業界動向：中国

中国工作機械工業協会(CMTBA)は5月20日、中国税関のデータに基づく最新の経済統計を発表した。これらの数字は、中国の工作機械産業の動向、特に今年第1四半期の輸出入について、その動向を詳細に示している。2024年の前年同期比でのわずかな減少から、今四半期は全体的に増加に転じた。

中国の工作機械産業における第1四半期の輸出入総額は77億ドルに達し、前年同期比2.1%増加した。特に、輸入額は23億7,000万ドルであったが、引き続き減少し、前年同期比5.6%の減少となりました。一方、輸出額は53億3,000万ドルで、前年同期比5.9%の堅調な伸びを示した。

工作機械の累計輸入額には、金属切削機械が11億4,000万ドル含まれており、これは前年比6.7%の減少となった。輸入額上位5位の工作機械は、マシニングセンタ(4億3,000万ドル)、特殊加工機械(2億4,000万ドル)、研削盤(1億7,000万ドル)、歯車機械(1億3,000万ドル)、旋盤(0.8億ドル)であった。その他の項目では、コアコンポーネントが3億ドル(6.25%減)、切削工具が2億9,000万ドル(6.45%減)、CNC制御システムが2億4,000万ドル(9.1%増)、研磨材が1億7,000万ドル(6.25%増)、金属成形機械が1億4,000万ドル(26.32%減)、測定・検査装置が4,000万ドル(横ばい)であった。

第19回中国国際工作機械見本市(CIMT 2025)が4月21日から26日まで北京で開催された。会場は2つの展示センター(計17ホール、延べ面積31万平方メートル)に分かれ、中国国際展覽センター(CIEC)は8ホール、延べ面積10万平方メートル、首都国際展覽コンベンションセンター(CIECC)は9ホール、延べ面積21万平方メートルでした。

CMTBA（中国国際工作機械見本市協会）の事後報告によると、出展社数は2,400社を超え、うち中国国内は1,550社、海外は870社以上でした。来場者数は221,993人で、前回比36.81%増となった。

AMT/USAパビリオンには27の出展者が参加した。その中には、IMTS 2026のプロモーションと、8台のCNC工作機械を用いたMTConnectプロトコルのデモを行ったAMTインフォメーションブースも含まれていた。AMTのパートナーであるiSISOは、8台のCNC工作機械からデータを収集し、ブース内のダッシュボードにリアルタイムで表示するアプリケーションを開発した。

参考までに、最近発表されたプロジェクトと投資ニュースをいくつかご紹介する。

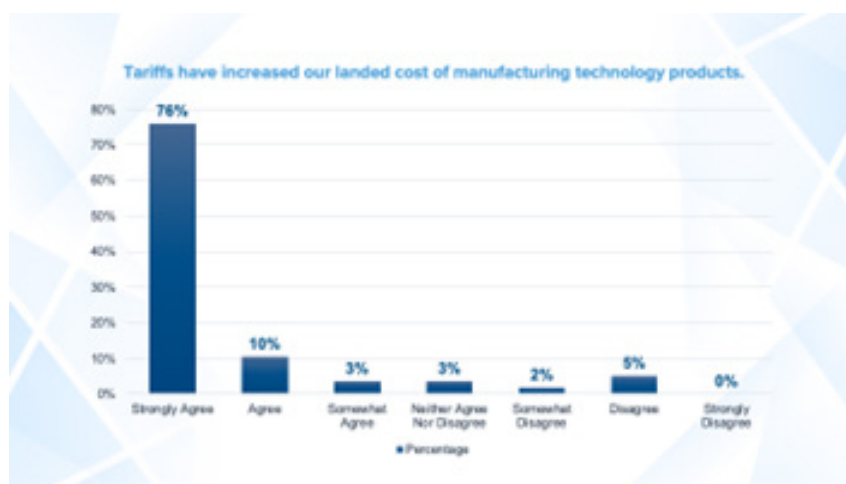
- 陝西快速汽車伝動集団は、咸陽に機械加工、熱処理、組立を行う新工場を建設するため、4,378万ドルを投資します。このプロジェクトには、160セットの設備購入が含まれており、年間2,000台の農業機械用トランスミッションシステムの生産能力を有する。
- 建瑞達汽車部件は、自動車用炭素繊維部品の生産に1,644万ドルを投資し、年間10万個の生産を目指している。
- 江蘇人和風力能源科技は、洋上風力発電機の部品製造に5,753万ドルを投資する。
- 順航(安徽)精密製造は、電気自動車および家電製品の部品製造関連生産ライン向け2つの施設の建設とダイカストマシンの購入に6,986万ドルを投資する。
- コスタル・パワートレイン・システムズは、上海市嘉定区の自動車産業の中心地にある新たな生産プロジェクトに3,015万ドルを投資します。

(AMT ONLINE 2025年6月5日付)

◆米国製造業への関税の影響に関する調査：5つの重要なポイント

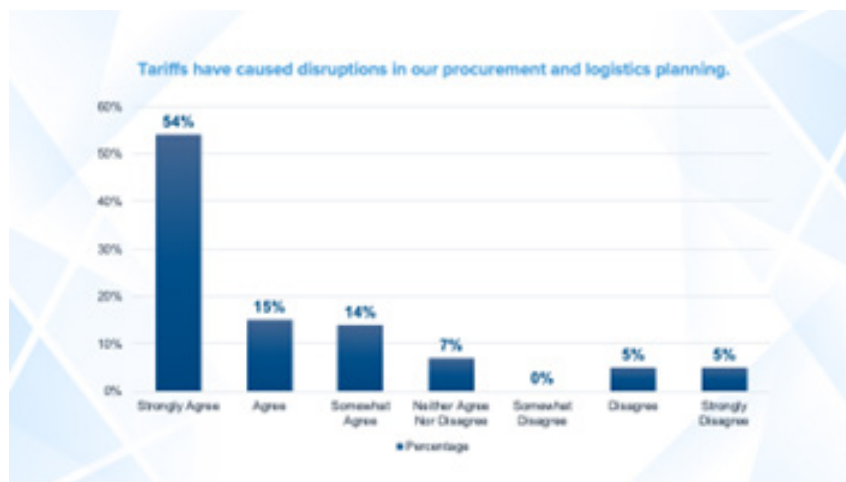
関税は、米国製造業全体にとって依然として最大の懸念事項である。2025年第2四半期、AMT（米国製造技術工業協会）の調査チームは、会員企業の経営幹部59名を対象に、関税の影響の継続を評価するための調査を実施した。「米国製造技術への関税の影響：2025年第2四半期スポット調査」のデータは、価格上昇だけにとどまらない、経営幹部が共有した懸念事項には、事業運営上のストレス、戦略的な不確実性、そして継続的な支援の必要性などが含まれていた。以下は、米国製造業界としての対応を形作る5つの重要なポイントである。

1. コストは上昇し、利益率は低下している



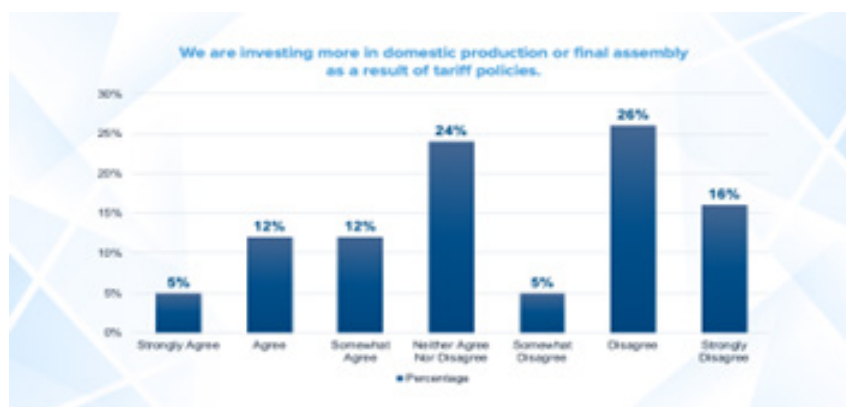
回答者の86%が関税に関連した着地コストの上昇を報告し、83%が輸入品の利益率が打撃を受けたと回答している。ほとんどの企業はコストを顧客に転嫁しており、76%が価格を引き上げた。その他の企業は値上げ分を社内で吸収しており、収益性への圧力が高まっている。

2. 関税はほぼあらゆるものに影響を及ぼす



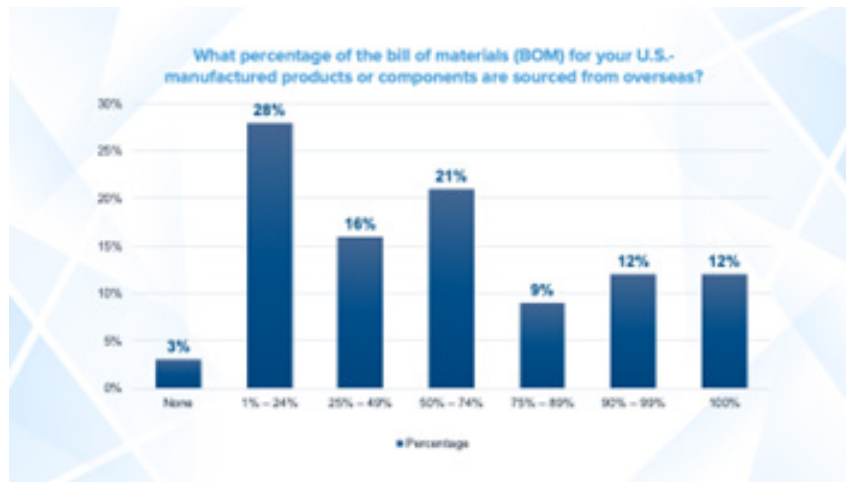
会員企業の半数(49%)は、ポートフォリオの90%以上が影響を受けていると回答している。半数以上(54%)は、調達および物流計画に混乱が生じていると報告している。関税はニッチな分野を狙ったものではなく、製造技術サプライチェーンのほぼすべての分野に影響を及ぼしている。

3. 企業は適応を進めているものの、慎重に



一部のメーカーは調達先をシフトし、国内での最終組立を検討している一方で、大きな動きをする前に政策の明確化を待っているメーカーもある。施行時期や関税の範囲に関する不確実性により、長期的な計画の策定は困難になっている。

4. グローバルサプライチェーンは依然として重要



回答者の半数以上が、原材料を海外から調達しており、その割合は54%に達している。国際的なサプライチェーンとの密接な連携は、リショアリング戦略の短期的な柔軟性を制限し、安定した貿易関係の必要性を浮き彫りにしている。

5. 不確実性が最大の障壁

関税そのものだけでなく、政策の不安定さが最大の懸念事項となっている。経営幹部は、政策の絶え間ない変更、透明性の欠如、そして予測不可能な執行が投資と信頼を損なうと繰り返し強調した。ある回答者は、「不確実性は関税と同じくらい痛い」と述べている。

今後の展望

AMT（米国製造技術工業協会）は、ドナルド・トランプ大統領政権が掲げる、公平な競争条件の確保と米国製造業の強化という目標を支持している。しかし、関税をめぐる不確実性、すなわちその適用範囲の広さと一貫性のない実施は、依然として我が業界にとって課題となっている。国防と経済成長の基盤である製造業は、安定した予測可能な政策環境に依存している。多くの会員が、地域代表者と自らの体験を共有することの重要性を強調している。

各国とトランプ政権との交渉は現在も続いている。最近、中国と英国との間で合意が成立した。

（AMT ONLINE 2025年5月21日付）

重要

インド向け輸出に必須 BIS認証取得のご案内



税関と連携するBIS規制制度が
2026年9月1日から正式導入が決定しました。

インド政府による「包括的技術規制(OTR)」制度の改正およびBIS認証対応に関する最新情報を、
工作機械メーカーの皆様にご案内させていただきます。
対象となられる企業様は、早急な対応をおすすめします。

最新情報

OTR制度の適用開始時期が開示されました(2025年6月12日発表)
インド重工業省(Ministry of Heavy Industries, India)は、2025年6月12日付で「設備・電気機器安全規則(OTR) 2024」の改正通達(OTR Amendment 2025)を発表しました。

BIS認証の取得は必須です

2026年9月1日以降、BIS(インド標準局)認証を取得していない工作機械は、インド税関で通関できなくなります。
対象となる企業は、次の2つのステップに対応する必要があります。

すべてのメーカーが対応すべき2ステップ

ステップ1 BIS登録申請

- 生産拠点および製品機種ごとに登録が必要です

ステップ2 テクニカルファイル(技術資料)の提出

- インド規格(Indian Standard)に準拠した内容が求められます
- CEファイルがあれば活用可能ですが、BIS独自形式への変換が必要です

日印ビジネスビューロー(JIBB)によるサポートとプロセス全体

JIBBでは、BIS認証取得に向けた以下の工程を有償にてトータルサポートしております。
初めての申請でも安心して進められるよう、分類・資料整備・訪問調整・提出まで包括的に支援いたします。

主なステップ・サポート内容

- 対象機種の分類・工場／製品ごとの適用分類確認とグルーピング支援
- テクニカルファイル作成／CE準拠資料の修正、BIS形式への整備
- 工場仮検査(審査員による訪問)／実機と技術資料の整合性確認
- 本申請サポート／BIS本局への正式提出、再審査対応

工場仮検査について(インド審査員の来日対応)

- 仮検査では、審査会社による現地(日本国内)での実機確認を行います
- 1日あたり1台／1名での審査を見込んでいます
- 来日検査のスケジューリング等サポートいたします

ご注意

- BISの技術資料審査には最大180日かかる場合があります(今後60日以内を目指して改善中)
- 登録を済ませただけでは不十分であり、技術資料の整備・審査通過がなければ通関不可となる可能性があります
- 適用開始日が来年となったことにより時間的猶予がある今、余裕を持った準備が強く推奨されます

BIS認可取得サポート窓口／お問い合わせ・ご相談窓口

JIBB 特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー / **JIC** 日印コンサルティング株式会社

担当 安井 ☎ 090-9325-3456 ✉ info@ji-consulting.jp 橋倉 ☎ 080-6516-4331 ✉ trade@ji-consulting.jp

3. 工作機械関連企業動向

◆ SMEC、現代ウィア工作機械事業部の買収 9 合目越え

韓国工作機械4位業者であるSMECが2位の現代ウィア工作機械事業部買収資金を確保するために有償増資を試みている中で、金融監督院がSMECの有償増資に一度ブレーキをかけた後、12日これを承認した。

これを受け、SMEC社の現代ウィア工作機械事業部の買収に弾みがつく見通しだ。

12日、金融監督院の電子公示システムによると金融監督院はSMECが公示した4月22日、有償増資の再推進案に対して「5月10日付で効力が発生する」と公示した。

これでSMECは有償増資を推進できるようになった。

これに先立ってSMECは先月3日、539億ウォン規模の有償増資案を発表した。これはSMECの時価総額(1000億ウォン台前半)に比べて半分に近い数値だった。

SMECと財務的投資家であるリルソンPEは各々1,183億ウォン、2,217億ウォンをかけて計3,400億ウォンで現代ウィア工作機械事業部を買収すると3月18日公示した。

SMECは1,183億ウォンのうち539億ウォンを有償増資を通じて調達するという意思を明らかにしたのだ。

だが「遺贈爆弾」を突然宣言し、SMECの株価は先月3日、遺贈発表日に12%ほど下落、株主の間の不満が多かった。

株主の小遣いで4位のSMECが2位の現代ウィア工作機械事業部を買収するという批判も出た。

これに対し金融監督院は17日、訂正申告書を誘致しSMEC有償増資にブレーキをかけた経緯がある。

その後、SMECは23日、訂正申告書を提出し、有償増資の必要性を詳細に力説した。

既存株主の株価希釈の可能性が多いが割引率が25%で適正であり、現代ウィア工作機械事業部の買収時に既存事業とシナジー効果を出すことができるという点を説明した。

これに対し金融監督院はSMECが忠実に遺贈背景を説明したと判断し、これを承認したものと分析される。

今後、SMECは6月24日から25日までの2日間、一般公募の申し込みを受け7月11日に有償増資を終える計画だ。

今回の有償増資は株主配分後、実権株の一般公募方式で進められる。代表主管会社は韓国投資証券だ。

SMECが公示した資料によると、国内工作機械産業は昨年末基準でDNソリューションズ(73.3%)、現代ウィア(13.3%)、ファクション機工・機械(6.8%)、SMEC(6.7%)の順で占有率を記録している。

昨年末基準で国内工作機械メーカー4社の売上高は2兆8831億ウォンだ。今回SMECが現代ウィアを買収することになれば、一気に2位事業者になることになる。

(毎日経済新聞 5月12日付)

<https://www.mk.co.kr/news/stock/11314622>

◆ HELLER 社、パリ航空ショーで最先端の 5 軸加工技術を展示

「Excellence4Aerospace」というスローガンの下、HELLER社はホール2b、F 194ブースにおいて、複雑な部品を高生産性かつ柔軟に製造する専門知識を展示する。

2025年6月16日から22日まで開催されるパリ航空ショー2025には、航空業界の主要メーカーとサプライヤー、そして航空機運航会社や航空会社が一堂に会します。革新的な製造ソリューションで知られる、ニュルティンゲンに拠点を置くHELLERグループも出展する。「Excellence4Aerospace」というスローガンの下、HELLERはホール2b、ブースF194において、複雑部品の高生産性と柔軟性を実現する専門知識を展示する。

特に、5軸加工機FシリーズおよびHFシリーズは、様々なサイズのエンジン部品、ドア、シャーシ、構造部品の製造においてその強みを発揮している。特に難削材の加工において、HELLERの堅牢で信頼性の高いソリューションは、プロセス、剛性、そしてサービスにおける高い安定性により、ユーザーに深い安心感をもたらす。コンパクトなマシニングセンタは、油圧部品や小型機械部品の生産にも対応可能である。数々の先進機能と幅広い自動化オプションを備えたこれらのマシンは、単品製造から24時間365日体制の柔軟な大量生産まで、あらゆるニーズに対応する。

HELLERはイノベーション推進の一環として、2023年末より、新製品Fシリーズの5軸加工機を様々なサイズで発売している。コンパクトな設置面積に加え、X/Y/Z軸の軸加速度が最大 7m/s^2 、X/Y/Z軸の位置公差が最大 $6\mu\text{m}$ と高いことも、これらの機械の需要増加に貢献している。また、外形寸法に比べて作業面積が広いことも利点です。その結果、新しいHellerマシニングセンタは、極めて高いアプリケーション柔軟性を提供する。

多くの航空宇宙製造企業において、機械加工がますます重要な役割を担う中、HELLERはこのオールインワンコンセプトを採用し、Fシリーズ(サイズ10000まで)にオプションのミルターン機能を搭載し、ミーリングと旋削を組み合わせた加工を可能にした。これは、最大700 rpmの高トルクDDT (ダイレクトドライブ旋削)回転テーブルによって実現されている。ミーリング加工や穴あけ加工に加え、1回のセットアップで外径および内径の輪郭を縦方向または横方向に削り取ったり、様々なアンダーカットやリセスを作成したりすることも可能です。さらに、外ねじおよび内ねじの切削も可能です。これにより、別の旋盤での再クランプが不要になり、部品精度の向上とサイクルタイムの短縮につながる。

Fシリーズの高い信頼性と様々なエラー防止機能により、この先進的な5軸マシニングセンタはさらに魅力的な製品となっている。Sinumerik One制御システムに統合された「デジタルツイン」により、最初の切削片を除去する前であっても、生産プロセスの高精度な仮想マッピングが可能になる。それでももちろん、ダイナミックでありながら堅牢なHELLERマシンは、NCプログラムを最高精度で実行する。

将来どのようなワークをどのような数量で生産するかまだ決まっていないお客様向けに、HELLERは最大限の柔軟性を実現する「Automation-READY」オプションを提供している。これにより、既存の標準化された自動化システムを後から迅速かつ容易に追加できる。Fシリーズには、自動パレットチェンジャー (APC)が標準装備されている。また、リニアまたはロータリー式パレットストレージシステム (RSP)、あるいはロボットを使用した高度な自動化ソリューションも用意している。

5軸HFシリーズおよび4軸Hシリーズのマシニングセンタが新たに加わり、航空宇宙部品製造における柔軟性と生産性に優れた工作機械のラインナップが充実した。詳細はパリ航空ショー2025で発表予定。

(Heller News Release 2025年5月15日付)

◆ HERMLE 社、2025 年第 1 四半期の業績は予想通り減少

工作機械業界の低迷を受け、HERMLE AGの2025年第1四半期の業績は予想通り減少した。ドイツ・シュヴァーベン地方の工作機械およびオートメーション専門企業である同社のグループ全体の受注高は、前年同期比5.3%減の1億2,030万ユーロ（前年：1億2,700万ユーロ）となった。これは主に国内需要の低迷によるもので、報告期間中のドイツ国内の新規受注は26.9%減の3,160万ユーロ（前年：4,320万ユーロ）と大幅に減少した。一方、海外顧客からの受注は5.8%増の8,870万ユーロ（前年：8,380万ユーロ）となった。これは、HERMLEの体系的な国際化戦略が再び成功を収めたことを示している。2025年3月31日時点のグループ全体の受注残は1億2,180万ユーロで、2024年の同日時点の1億5,080万ユーロ、2024年末時点の9,870万ユーロと比較して増加している。

HERMLEは、グループの国際売上高もわずかに増加した。2025年1月から3月までのドイツ国外での取引量は2.6%増の6,990万ユーロ（前年：6,810万ユーロ）であった。これは、国内売上高が29.1%減の2,730万ユーロ（前年：3,850万ユーロ）と大幅に減少したこととは対照的である。輸出比率は63.9%から71.9%に上昇した。グループ全体の売上高は8.8%減少し、9,720万ユーロ（前年：1億660万ユーロ）となった。予想通り、2025年第1四半期の稼働率の低下は、収益の大幅な減少につながった。HERMLEは、フレックスタイム制度を段階的に縮小し、事業の多くの部門で短時間労働を導入することで、この問題に対処している。3月末現在、HERMLEグループ全体の従業員数は1,605名で、前年同期の1,521名、2024年末の1,603名と比較して減少している。

厳しい経済環境下においても、また長期的に見込まれる自動化ソリューションおよびマシニングセンタへの高い需要の持続に備えるため、HERMLEは報告期間中に拠点開発のための包括的な投資計画を進めた。その焦点は、ゴスハイム本社に新アプリケーションセンターを建設することであった。しかしながら、2025年第1四半期の投資額は前年同期を下回った。HERMLEグループは、健全な財務計画により、財務および資産状況が非常に堅調に推移しており、2025年3月末時点で自己資本比率は70%を超えている。

景気低迷、地政学的紛争、関税・貿易紛争といったマイナス要因が依然として存在し、現状では環境改善の兆しが見られないことから、2025年全体の見通しに変更はない。HERMLEは、売上高が10%弱から25%減少し、利益が40%から90%という大幅な減少になると見込んでいる。

（Hermle News Release 2025年5月付）

◆ DN Solutions テクニカルハブが業務全体の効率化を約束

効率化は、ミクロレベルのみに焦点を当てるだけでは達成できない。組織、現場、そして個々の機械レベルで取り組む必要があります。米国・イリノイ州シャンバーグに最近開設されたテクニカルセンターで、DN Solutionsがどのようにこれを実現しているかをご覧ください。

プロセスハブ

DNソリューションズは、4月29日から5月1日まで、新施設のオープンを祝うイベントを開催した。同社は2023年末に新テクニカルセンターの建物を購入し、2024年初頭に建設と改修工事を開始した。IMTS 2024期間中には12台のデモ機を展示するソフトオープンに向けて準備を進めていましたが、この度、16台の機械、スペアパーツ倉庫、そしてアプリケーションおよびサービスチームのオフィスを備えた正式オープンを迎えた。工作機械の製造はすべて韓国本社で行われるが、ランチ&ラーニング、

FANUC制御に関する講習、ロボットによるターンキーセットアップ、顧客向けのテストカットなどはすべてテクニカルセンターで行われます。つまり、同社の米国における事業と流通はこのハブから始まることになり、連絡網と部門間の連携が効率化されます。

親会社はまた、多国籍企業全体にわたって共通の業務文化と目標を浸透させる取り組みも行っています。DNの狙いは、各支店間のコミュニケーションを改善し、シカゴの技術センターが韓国本社とより緊密に連携し、変化する顧客のニーズに機敏に対応できるようにすることです。

DN Solutionsは現在、技術センターを通じて航空宇宙業界の顧客への取り組みに注力している。同社は様々な業界に特化した営業およびアプリケーションの専門家を採用しているが、その多くは航空宇宙産業に重点を置いている。この市場への注力は、施設に展示されている工作機械にも表れており、プロセス効率を向上させるアクセサリやシステムを備えた5軸工作機械やミルターンマシンなどが数多く含まれている。

機械の稼働率向上

DNソリューションズは、今回のオープンハウスで、多軸ミルターンのDNXおよびSMXシリーズ、そして5軸ミルターンのDVFシリーズに特に注目しました。SMXマシンは、ツインタレットとツインスピンドルを備えた汎用同時ミルターンマシンで、アプリケーションエンジニアリングディレクターのマイケル・チャラワ氏は、スカイビング機能と5軸機能により、航空宇宙産業の加工に最適であると述べている。一方、DNXには下部タレットは搭載されていないが、B軸ミリングヘッドとデュアルスピンドルを備えた強力なマルチタスクマシンであると同社は述べている。また、DNXは高精度を実現し、複雑なミルターン加工のセットアップを簡素化するとも述べている。

DNソリューションズは、関税が韓国との貿易に影響を与え始める前に、可能な限り多くの機械と修理部品を米国に備蓄している。米国テクニカルセンターは、パートナー技術をターンキーで統合し、これらの機械に引き続き装備していく。

DN Solutionsは、オープンハウスでDLXシリーズのパウダーベッドフュージョン(PBF)積層造形装置と付属ソフトウェアも紹介した。これらの装置は新製品のためオープンハウスには出展できませんでしたが、DLX装置は7月か8月に米国への導入が始まると見込まれている。

施設全体の効率化

DN SolutionsのデジタルツインとLPSは、テクニカルセンターのテストカットや社内プロジェクトの効率化に役立っているが、これは施設(そして会社全体)が効率を最大化するために講じた唯一のステップではない。シカゴビルの建設の一環として、DN Solutionsは暖房・空調システムの効率を改善し、エネルギー効率の向上と可能な限りの再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組んでいる。後者を実行することで、この施設は可能な限り太陽エネルギーを使用して建物に電力を供給するDN本社の足跡をたどることになる。

(Modern Machine Shop 2025年5月23日付)

4. 展示会情報

◆ブラジル Expomafe

5月6日から10日にかけて、ブラジルではラテンアメリカで最も多くの来場者数を誇る製造技術見本市「Expomafe」を開催した。この巨大市場、この見本市、そして同地域における産業需要の喚起を目指すExpomafeに関する重要なデータをご紹介します。

ブラジルの人口は、2025年末までに2億1,850万人に達すると予測されている。

ブラジルは世界第10位の経済大国であり、ラテンアメリカ最大の経済大国である。

ブラジルは南米経済圏の貿易圏であるメルコスール(Mercosul)の創設メンバーであり、6月6日から議長国を務める。

ブラジルはEUとの貿易協定の完全履行に向けて取り組んでいる。

ブラジルはラテンアメリカで唯一、国内に航空機製造拠点を持つ国である。世界第3位のジェット機メーカーであるエンブラエルを含む16社以上の航空機メーカーが、この拠点を拠点にしている。また、工作機械と金型の製造拠点も有している。

ブラジルは、自動車、航空宇宙、機械、金型、ソフトウェア、農業、電子・電気分野において、強力で卓越した産業を誇っている。

過去最大規模となったExpomafe 2025は、あらゆる期待を上回る成果を上げた。9万平方メートルの展示スペースを埋め尽くし、5万人以上の来場者を迎え、会期中に900を超える国内外のブランドが出展した。ドイツ、スペイン、イタリア、台湾、中国、インドなど、多くの国からパビリオンが出展した。

世界各国の企業から多様な代表者が集まり、出展者と交流を深めまた。ペトロブラス、ノボノール、タピー、ワールプール、アウディ、ZF、BMW、エンブラエル、シュルツ、スカニア、ボルボ、メルセデス、カミンズ、トーラス、フィアット、VWなど、数多くの企業が参加した。

5日間にわたる展示会は充実した内容で、来場者は、ますます高度化する産業顧客の期待に応える幅広い産業ソリューションが紹介されたことに感銘を受けた。

ブラジルの製造業の総生産額は2024年に3,000億ドル近くに達し、今後も成長が見込まれている。

ブラジルでは2024年に60億ドルを超える製造技術製品の消費があり、工作機械の需要は前年比13%以上増加した。

ブラジルは、世界の産業用ロボット市場において重要な市場貢献者として台頭しており、2025年から2033年にかけて様々なセクターで年平均成長率(CAGR)10%を超える成長が見込まれている。

ブラジルは、自国を変革するための大規模な取り組みを進めており、石油・ガス、農業、自動車、家電、エレクトロニクス、航空、鉄鋼といった分野に加え、世界的な工業大国としての地位向上を目指している。ブラジル南部がGDPに大きく貢献してきた伝統は今も健在であり、ブラジル経済は世界の製造業の最新トレンドを取り入れ、理解していくことを期待しており、展示会では、資産管理、プログラミング、付加価値加工、溶接など、非常に高度なソリューションが数多く紹介された。

AMT（米国製造技術工業協会）もExpomafe 2025にインフォメーションブースを出展した。さらに、80社を超える会員企業が直接または販売代理店を通じて出展し、ブラジルにおける先進的な製造ソリューションの導入への期待を浮き彫りにした。経済協力開発機構(OECD)によると、ブラジルは、世界的な関税による世界市場の不確実性にもかかわらず、2025年には依然として堅調な経済成長と産業成長が見込まれるラテンアメリカ諸国の中でも数少ない国の一つである。

ブラジルの製造技術またはデジタルソリューションに対する顧客基盤は、主に以下の点に重点を置いている。

- テクノロジー：市場は最先端のソリューション、特にROI(投資収益率)がコストに見合うソリューションを求めている。
- 国内／現地拠点：グローバル企業がブラジルで成功するには、公平な競争環境、つまり顧客基盤の理解するところによれば、製品、スペアパーツ、ポルトガル語での技術サポート、そして事業拠点の近くに強力な現地拠点が必要である。
- 市場へのコミットメント：ブラジルの顧客基盤は、市場へのコミットメントを明確に示すことを求めている。

(AMT ONLINE 2025年5月20日)

◆ EMO2025 視察団（ご案内）



EMO Hannover 2025視察団のご案内 欧州国際工作機械見本市

Aコース(3泊6日EMO視察)
2025年9月21日(日)～9月26日(金)

日次	月日(曜)	都 市 名	時 間	交通機関	日 程	食事
1	9月21日 (日)	羽 田 発	19:55 21:55	TK-199	羽田空港第3ターミナル集合 トルコ航空にて空路、イスタンブールへ <機内泊>	機内
2	9月22日 (月)	イスタンブール着 〃 発 ハノーバー着	5:05 7:20 TK-1553 9:35 徒歩 午後	公共交通機関	到着、乗継 空路ハノーバーへ 着後、ホテルへ（荷物を預けます。） *Aコースにご参加の皆様と同一行動となります。 EMO視察 片道ホテル～メッセ会場日本語アシスタント同行 *Bコースにご参加の皆様と同一行動となります。 <ランゲンハーゲン市内泊>	機内 昼：X 夕：X
3	9月23日 (火)	ハノーバー滞在	終日	各自	EMO視察 懇談夕食会（A、Bコース共通） <ランゲンハーゲン市内泊>	朝：○ 昼：X 夕：○
4	9月24日 (水)	ハノーバー滞在	終日	各自	EMO視察 <ランゲンハーゲン市内泊>	朝：○ 昼：X 夕：X
5	9月25日 (木)	ハノーバー発 イスタンブール着	午前 16:30 徒歩 18:50 TK-1556 23:05	各自	EMO視察 （12時までにチェックアウト後、荷物はホテルに預けて頂きます。） 空港へ *Bコースにご参加の皆様と同一行動となります。 空路、帰国の途へ <機 中 泊>	朝：○ 昼：X 機内
6	9月26日 (金)	イスタンブール発 羽 田 着	1:55 19:20	TK-198	到着、乗継 到着、通関手続後、解散	機内

※上記日程表は作成当日の最も新しい資料を基に作成されておりますが、
利用交通機関等の都合により変更となる場合がございます。予めご了承ください。
【利用航空会社】TK:ターキッシュエアラインズ
※時間帯の目安 午前09:00～12:00 午後12:00～16:00
夕刻16:00～18:00 夜18:00～22:00 深夜22:00～27:00
※宿泊地：ランゲンハーゲン（ハノーバー中心部から約11km/車で約20分）
【ランゲンハーゲン利用ホテル】Maritim Airport Hotel Hannover
【イスタンブール利用ホテル】Grand Halic Hotel（Bコース）
（部屋タイプ）2名1室：ツイン、1名1室：シングルまたはダブル
（ご指定はいただけません）※部屋のバスはシャワーのみです。
お客様によってはバスタブ付きの部屋になる場合があります。

Bコース(4泊7日EMO+企業視察)
2023年9月21日(日)～9月27日(土)

日次	月日(曜)	都 市 名	時 間	交通機関	日 程	食事
1	9月21日 (日)	羽 田 発	19:55 21:55	TK-199	羽田空港第3ターミナル集合 トルコ航空にて空路、イスタンブールへ <機内泊>	機内
2	9月22日 (月)	イスタンブール着 〃 発 ハノーバー着	5:05 7:20 TK-1553 9:35 徒歩 午後	公共交通機関	到着、乗継 空路ハノーバーへ 着後、ホテルへ（荷物を預けます。） *Aコースにご参加の皆様と同一行動となります。 EMO視察 片道ホテル～メッセ会場日本語アシスタント同行 *Aコースにご参加の皆様と同一行動となります。 <ランゲンハーゲン市内泊>	機内 昼：X 夕：X
3	9月23日 (火)	ハノーバー滞在	終日	各自	EMO視察 懇談夕食会（A、Bコース共通） <ランゲンハーゲン市内泊>	朝：○ 昼：X 夕：○
4	9月24日 (水)	ハノーバー滞在	終日	各自	EMO視察 <ランゲンハーゲン市内泊>	朝：○ 昼：X 夕：X
5	9月25日 (木)	ハノーバー発 イスタンブール着	午前 16:30 徒歩 18:50 TK-1556 23:05	各自	EMO視察 （12時までにチェックアウト後、荷物はホテルに預けて頂きます。） 空港へ *Aコースにご参加の皆様と同一行動となります。 空路、イスタンブールへ ホテルへ <イスタンブール泊>	朝：○ 昼：X 機内
6	9月26日 (金)	イスタンブール	終日	専用車	現地企業視察 Pimsa otomotiv社（車体部品製造） Gazioğlu Solar Energy Inc社（ソーラーパネル製造） 空港へ <機内泊>	朝：○ 昼：○ 夕：○
7	9月27日 (土)	イスタンブール発 羽 田 着	1:55 19:20	TK-198	到着、通関手続後、解散	機内

Bコース6日目企業視察
①Pimsa otomotiv(ピムサ社)
車体部品製造業
設立:1975年 本社:チャイロヴァ
従業員数:約300人
*一般の工場見学となります。

②Gazioğlu Solar Energy Inc.(ガジオグル社)
ソーラーパネル製造業
設立:1967年 本社:チェルケズコイ
*一般の工場見学となります。

- 募集人員 : Aコース28名（最少催行人員：20名） Bコース20名（最少催行人員：13名）
- 旅行代金 : Aコース550,000円 Bコース660,000円 2名1部屋利用お一人様料金（空港諸税および燃油サーチャージは含まれておりません。）
一人部屋追加代金 Aコース120,000円 Bコース160,000円
空港諸税および燃油サーチャージは含まれておりません。別途収受いたします。羽田空港施設使用料(2,950円)、国際観光旅客税(1,000円)
海外空港諸税(目安21,990円)、燃油サーチャージ(目安75,500円) 基準日：2025年4月25日現在 * 燃油サーチャージは目安となります。
増額された場合は差額分を追加収受し、減額された場合はその分を返金致します。日本円換算額はIATA公示発券レート（BSR）によります。
- 申込締切日：2025年7月4日(金) * 締切日前でも定員に達し次第、締め切ります。
- 添 乗 員：Aコース：1日目から5日目のイスタンブールまでは、同一行動のBコースの添乗員が同行いたします。Bコース：添乗員が同行します。（1～5日目はAコースと同一行動となります。）

★お問い合わせは

当広告からのお申込みは承っておりません。正式な募集パンフレット、
参加申込書をご用意しております。お気軽にお問合せください。

後援：一般社団法人日本工作機械工業会

旅行企画・実施：東武トップツアーズ株式会社
観光庁長官登録旅行業第38号（一社）日本旅行業協会正会員
ボンド保証会員

東武トップツアーズ株式会社 法人営業東事業部 第2営業部
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-10-5 住友生命茅場町ビル2階
TEL：050-9000-4237 FAX：03-6667-0568 emo2025@tobutoptours.co.jp
営業時間 平日9:30～17:30（土日祝：休み）担当：竹内
総合旅行業取扱管理者/藤本 一樹



SIMTOS 2026 ジャパンパビリオン出展のご案内

2026 年 4 月、韓国最大級の工作機械見本市「SIMTOS 2026」が開催されます。本展示会への出展に際し、ジャパンパビリオンとしての出展をご案内いたします。

○開催基本情報

- ・名 称 SIMTOS 2026(第 21 回ソウル国際工作機械展覧会)
- ・主 催 韓国工作機械産業協会 (KOMMA)
- ・会 期 2026 年 4 月 13 日 (月) ~17 日 (金) 《5 日間》
- ・会 場 新韓国国際展示場 (KINTEX 1 & 2)
- ・出展対象 工作機械およびその関連機器等

○小間料 1 小間：3 m×3m=9 m² (ロースペース)

申込区分	申込期日 (2025 年)	小間料 (USD)	割引率
アーリーバード	5/31 まで	USD 2,268	41.5%
一般 A	6/1-7/31	USD 2,817	27.4%
一般 B	8/1-10/31	USD 3,384	12.8%
レイト	11/1~	USD 3,879	-

■ジャパンパビリオンとして出展すると以下のメリットがあります

①KINTEX 1 内におけるパビリオン出展場所の確保

会場内で人通りの多い KINTEX 1 にまとまって出展いただけます。

※鍛圧機械は類別展示により別エリアになる可能性があります。

②デポジットなしの個別支払い

9/30 までデポジット不要で、主催者より各社宛に個別で請求書が送付されます。

③割引期間の延長

通常は 2025 年 5 月 31 日までのアーリーバード割引 (41.5%) が、ジャパンパビリオン出展者に限り 2025 年 9 月 30 日まで適用されます。

○お申込方法

別添の申込手順をご確認のうえ、以下の URL もしくは QR コードよりお手続きをお願いいたします。
また、お申込みが完了しましたら、日工会 本多宛てにご一報いただけますようお願いいたします。

※なお、お申込みの際は、必ず「Japan-JMTBA (Japan Machine Tool Builders' Association)」
をご選択ください。こちらを選択いただかない場合、ジャパンパビリオンとしての各種メリットが適用されませんのでご注意ください。

◆SIMTOS2026 出展申込 URL : <https://c.simtos.org/eng/exhibitor/ExhibitorRegStep1.do>

◆SIMTOS2026 出展申込 QR コード :



問合せ先
(一社) 日本工作機械工業会
業務国際部 本多
TEL : 03-3434-3961
E-mail : honda@jmtba.or.jp

5. その他

◆ユーザー産業動向

ブルガリアで EU 最大の BESS 稼働、容量 496MWh

ブルガリアで大規模バッテリーエネルギーストレージシステム(BESS)が稼働を開始した。蓄電池コンテナ111基で構成される同BESSはピーク出力124メガワット(MW)、総容量496.2メガワット時(MWh)。同種の施設としては、バルカン半島はもとより欧州連合(EU)加盟国でも最大規模となる。26日付の業界ニュースサイト『PVマガジン』が伝えた。

中北部のロヴェチに設置した。投資額は7,500万ユーロ。ピーク出力106.2MWの太陽光発電所も併設する。

ブルガリアのスタンコフ・エネルギー相は、同BESSは2026年中に10ギガワット時(GWh)の蓄電池容量を達成する目標に向けた第1歩だと評価。「我々はバルカン半島および南東ヨーロッパにおける電力システムの柱だ。そのことを行動で証明する」と述べた。

(pv-magazine 5月27日付)

<https://www.pv-magazine.com/2025/05/27/bulgaria-inaugurates-496-mwh-battery-system/>

オルレンが英スタートアップに出資。高品質ポリマーのリサイクル需要見据え

ポーランドの石油・エネルギー大手オルレンは26日、傘下のベンチャーキャピタル(VC)ファンド、オルレンVCを通じ、プラスチックリサイクル技術の英スタートアップ企業ReVentasに出資したと発表した。高品質なリサイクル原料の需要を取り込む狙い。ReVentasの特許技術を用いてポリマーのリサイクル率を引き上げ、二次原料として欧州の産業界に広く提供していく。取引額は明らかにしていない。

ReVentasはプラスチック廃棄物を高品質なポリマーに変換し、消費者向け包装材など要求水準の高い用途に提供している。リサイクルプロセスは低温・低圧で稼働するため省エネ性に優れ、二酸化炭素(CO2)排出量も削減できる。今後産業規模で導入されれば、高純度のリサイクルプラスチックの市場供給量を大幅に増やせる可能性がある。

同社の技術は、世界の年間プラスチック生産量3億9,000万トンのほぼ半数を占めるポリエチレン(PE)とポリプロピレン(PP)を対象としている。PEとPPを構成するポリマーを溶解し、充填剤、顔料、臭気などの汚染物質を除去してクリーンで均質なポリマーに再生する。これら再生PEやPPは包装材、自動車部品のほか広範な消費財の製造に利用できる。

オルレンによると、ポリマーの世界全体のリサイクル率は現在、わずか9%にとどまる。欧州連合(EU)では2030年までに包装材の10%をリサイクル材で構成することが義務付けられるが、高品質のリサイクル原料が不足している。同社はこの状況を商機とみてReVentasへの出資を決めた。

(chemanalyst 5月26日付)

<https://www.chemanalyst.com/NewsAndDeals/NewsDetails/orlen-vc-latest-investment-in-reventas-targets-pe-and-pp-for-high-quality-36897>

番号：5596

電動バイクの中国 LOBO EV、セルビアで CKD 生産

中国の電動バイクメーカー、LOBO EVはセルビアで電動自転車のコンプリート・ノックダウン(CKD)生産を行う。最新モデル「CSM-01」の部品を中国から輸入し、提携する電動二輪車販売会社のCSM2017(パンチェボ)が最終組み立てを行う。供給規模は500万米ドル。製品は「セルビア製」として近隣諸国にも輸出する。21日付の英字紙『eKapija』が伝えた。

データブリッジ・マーケットリサーチ(DBMR)によると、欧州の電動自転車の市場規模は2022年が推定42億ドルで、30年までに2倍以上に拡大し81億ドルを超える見通し。LOBO EVは1億人の潜在顧客を抱えるバルカン半島および周辺の欧州連合(EU)加盟国で市場地位の確立を目指す。

江蘇省無錫市新呉区に拠点を置くLOBO EVは電動自転車のほか、モペッド、三輪車、四輪オフロード車、ゴルフカート、高齢者用スクーターなどの電動モデルを手掛けている。

(globenewswire 5月20日付)

<https://www.globenewswire.com/news-release/2024/04/02/2855967/0/en/LOBO-EV-Forges-Strategic-Collaboration-with-CSM2017-to-Expand-E-Bicycle-Business-in-Serbia.html>

Vバッテリーのイノバット、UAV 市場に参入

スロバキアの電動車(EV)用バッテリーメーカー、イノバットは19日、軍用ドローンなどの無人航空機(UAV)市場に参入する計画を明らかにした。欧州の防衛費増額に伴う需要を取り込む狙い。新開発した「E10セル」の量産を9月から開始する。

E10セルは欧州企業が初めて開発したUAV用バッテリー製品。重量エネルギー密度が320Wh/kg以上と優れており、同種のセルに比べてUAVの積載量を最大60%増やせるほか、飛行時間も40%延ばせる。容量10~80%までの充電時間は15分未満。サイクル寿命は750回以上で、バッテリーの初期状態100%に対する満充電時の容量割合(SOH)は80%を維持する。

イノバットはこれまで、EVおよび電動垂直離着陸機(eVTOL)向けにバッテリーを生産していた。創業者兼社長のマリアン・ボチェク氏は、「我々は、技術的に優位な欧州のバッテリーソリューションを求めるドローンメーカーと提携している」と明かした。

イノバットは同社の株式25%を保有する中国のリチウムイオン電池大手、合肥国軒高科動力能源(国軒高科)と合併で、2027年から独フォルクスワーゲン(VW)向けにEVバッテリーの生産を開始する予定。ボチェク社長は、UAV用バッテリー事業は国軒高科との合併事業とは別であり、北大西洋条約機構(NATO)の装備品調達要件に完全に準拠していると述べた。

(.reuters 5月19日付)

<https://www.reuters.com/technology/slovak-startup-inobat-launches-battery-military-drones-2025-05-19/>

接着剤の CFP 削減に向けヘンケルが南ア社と戦略協業

化学大手の独ヘンケルは19日、フィッシャー・トロプシュ合成の有力企業である南アフリカのサゾールと戦略パートナーシップを締結したと発表した。サゾールが新開発した「サゾールワックスLCシリーズ」の製品を自社のホットメルト接着剤「テクノメルト」の生産に投入。スコープ3(サプライチェーン)レベルで自社製接着剤の二酸化炭素(CO2)排出量を削減する。ヘンケルは英シンソマーとも同様の戦略パートナーシップを4月に締結している。

フィッシャー・トロプシュ合成は一酸化炭素と水素から触媒反応を用いて液体炭化水素を製造する技術。サゾールが同技術を改良して開発した新製品「サゾールワックスLC100」は製造工程で発生するCO2の量が従来品に比べ35%少ない。

ヘンケルはサゾールワックスLC100を用いた製品を消費財用包装材メーカー向けに生産。欧州、インド、中東・アフリカ市場に投入する。同社は2045年までのネットゼロ実現に向け、スコープ3のCO2排出量を30年までに21年比で30%削減する目標を掲げている。

両社は今回、持続可能なリサイクル原料の研究で協業することも取り決めた。

(プレスリリース 5月19日付)

<https://www.henkel.de/presse-und-medien/presseinformationen-und-pressemappen/2025-05-19-henkel-und-sasol-arbeiten-an-der-entwicklung-von-klebstoffloesungen-mit-niedrigeren-kohlenstoffemissionen-2059400>

石油大手オルレン、ノルウェーの電解槽メーカーに出資

ポーランドの石油・エネルギー大手オルレンは15日、傘下のベンチャーキャピタル(VC)ファンド、オルレンVCを通じ、ノルウェーの電解槽メーカー、ハイスター(Hystar)に出資したと発表した。グリーン水素事業を強化する戦略の一環。ハイスター独自の固体高分子(PEM)技術を活用して水素製造の効率を大幅に高め、コストを削減する。取引の詳細は明らかにしていない。

ハイスターのPEM型電解槽に使われる浸透膜は競合製品よりも90%薄いのが特徴。従来のPEM型電解槽と比べてグリーン水素を最大150%多く生産できるほか、コストを10%削減できる。

同社の電解槽製品は容量5メガワット(MW)。システムをモジュール化することで、顧客の要件に合わせた迅速なカスタマイズを可能にしている。2027年に生産ラインを自動化し、大規模な受注にも対応できるようにする予定。当初1.5ギガワット(GW)の年産能力は31年までに4.5GWに引き上げる。システムは水素充填コネクターの国際規格ISO 17268に準拠する。

ハイスターはオルレンVCが投資する13社目の企業。同VCは革新的で迅速に商業化の可能な技術を持つ有望企業に対し、年平均5件の投資を行う方針だ。

(プレスリリース 5月15日付)

<https://www.orklen.pl/en/about-the-company/media/press-releases/2025/may-2025/ORLEN-invests-in-advanced-electrolysers->

YASA、英に新工場開設 高性能軸流モーターでEV革新加速

メルセデス・ベンツ (Mercedes-Benz AG) の完全子会社YASA (YASA Ltd) は、英国オックスフォード近郊のヤントンに軸流型電動モーターの新工場を開設した。総投資額は1,200万ポンド(約23億円)で、年間2万5,000台超の生産能力を備える先進製造拠点となる。

YASAが開発した軸流型モーターは、従来型に比べ最大4倍の性能を持ち、特にソフトマグネティックコンポジット(SMC)金属粉末を用いたステータ構造が特徴だ。SMC技術により磁気損失を抑えつつ、小型化と高出力化を両立。フェラーリやランボルギーニの高性能EVへの搭載実績もある。

新工場では、コイル巻線やレーザー溶接などの高度製造セルを導入し、全工程を一カ所に統合。部品供給のボトルネックを排除し、高品質な量産体制を構築した。最高技術責任者ティム・ウールマー氏(Tim Woolmer)は「今回の施設拡張により、技術の展開速度・精度・規模が飛躍的に向上した」と語る。

YASAは英国のアドバンスド・プロパルジョン・センター (Advanced Propulsion Centre UK) と連携し、次世代軸流モーターの研究開発も進めている。CEOのヨルク・ミスカ氏(Joerg Miska)は「YASAモーターは高トルク・小型・高効率を備え、電動モビリティ分野での応用をさらに拡大する」と述べた。金属粉末技術と革新的設計の融合が、次世代EV推進の要となりつつある。

(metal-powder.tech/ 5月14日付)

<https://www.metal-powder.tech/yasa-opens-uk-based-axial-flux-motor-facility-with-capacity-to-produce-25000-motors-annually/>

TSMC がミュンヘンに設計センターを開設

半導体受託生産世界最大手の台湾積体電路製造(TSMC)は27日に蘭アムステルダムで開催した自社イベントで、ドイツ南部のミュンヘンにチップ設計センターを設置すると発表した。欧州での事業を拡大する。

「欧州連合設計センター (EUDC)」という名の拠点を第3四半期に開設する。欧州の顧客企業と共同で各社のニーズに見合った新製品を開発。TSMCの自社工場ないし独東部のドレスデンに建設中の合弁工場で生産する。

EUDCでは自動車や機械のほか、人工知能(AI)や通信機器、IoT(モノのインターネット)向けのチップも開発。台湾、米国、カナダ、中国、日本にあるTSMCの既存の設計センターと協業する。

欧州同業のインフィニオン、ボッシュ、NXPとの合弁で建設中のドレスデン工場では回路線幅12~28ナノメートル(NM)の製品を製造することになっている。このため、EUDCが12NM未満の製品を開発した場合はTSMCの工場で生産することになりそうだ。

EUDCの求人募集はビジネス特化型のSNS(ソーシャルネットワークサービス)リンクトインなどですでに始まっている。雇用規模は明らかにされていない。

ミュンヘンはハイテク産業が盛んで、アップルやインテル、マイクロソフト、オープンAIはすでに研究開発拠点を構えている。

(.heise 5月26日付)

<https://www.heise.de/news/TSMC-gruendet-Chipdesign-Zentrum-in-Muenchen-10402585.html>

NXP、車載通信の安全性を強化する「OrangeBox 2.0」発表

半導体大手のNXPセミコンダクターズ(NXP Semiconductors)は、車両ゲートウェイと車内無線技術間のセキュアな通信を実現するコネクティビティ・ドメイン・コントローラ「OrangeBox 2.0」を発表した。ソフトウェア定義車両(SDV)への対応とサイバー攻撃への耐性強化を目的とし、前世代比で4倍のCPU性能を持つほか、AIアクセラレーションやポスト量子暗号(PQC)対応などを統合している。

中核となるアプリケーションプロセッサ「i.MX 94」は、PQCの処理を加速し、機械学習による新たな脅威の検知機能を備える。加えて、2.5Gbpsのイーサネットスイッチを搭載し、SDVに必要な柔軟なソフトウェア定義ネットワークの管理も可能とした。

セキュリティ機能も大幅に強化されており、「EdgeLockセキュア・エンクレーブ(Advanced Profile)」と「EdgeLockアクセラレータ(Prime)」を搭載。ハードウェア・ルート・オブ・トラスト、高速セキュアブート、リアルタイムの暗号処理などにより、継続的かつ信頼性の高いセキュア通信を確保する。「OrangeBox 2.0」は2025年後半に提供を開始する予定。

(Hanser Automotive 5月21日付)

<https://www.hanser-automotive.de/a/produktmeldung/ki-faehiger-connectivity-domain-controll-6800793>

生体模倣システムをメルクが imec と共同開発へ

ライフサイエンス大手の独メルクは20日、超微細電子工学と情報技術の有力研究機関であるベルギーのimecと半導体チップベースの生体模倣システム(MPS)開発で戦略パートナーシップを締結したと発表した。新薬候補の開発加速と動物実験の削減に寄与する狙い。

MPSは生体組織環境を模倣したモデルを用いて、薬物の効果・安全性を評価する技術。前臨床試験の大幅加速につながることから、大きな期待が持たれている。

今回の協業にメルクはライフサイエンス、医療分野、imecは半導体チップ分野の技術・ノウハウをそれぞれ持ち寄り、次世代MPSモデルを共同開発する。バイオテクノロジー、製薬分野の他の企業との協業も模索する意向だ。

(プレスリリース 5月20日付)

<https://www.merckgroup.com/de/news/mps-with-imec-20-05-2025.html>

Altair、伊 3D プリント研究「MAM4HP」に参画 設計と製造の最適化めざす

米テクノロジー企業のアルテア(Altair)は、イタリアの金属3Dプリンター研究プロジェクト「MAM4HP (Metallic Additive Manufacturing for High Performances)」に参画した。同プロジェクトは、イタリアの国家復興計画(PNRR)の一環としてEUの「NextGenerationEU」資金により支援されている。目的は、金属部品の設計効率と製造性能の向上にある。

アルテアは、構造最適化やトポロジー解析、パラメトリックモデリングなどの機能を備えた開発プラットフォーム「HyperWorks」を提供する。設計段階から金属3Dプリント部品の性能と生産性を高めることで、製造現場の革新を支援する。ステファノ・デアナ副社長は、「他企業との協業と当社のシミュレーション技術が革新を加速させる」とコメントした。

プロジェクト期間は18か月。前半では既存部品の再設計を通じて材料特性と積層造形との最適化を図り、後半では造形パラメータや後処理工程の再現性・効率性を評価する。

参加企業にはレオナルド(Leonardo)、ドゥカティ(Ducati)、ボンフィリオリ(Bonfiglioli)、ポッジポリーニ(Poggipolini)などが名を連ねる。各社は提供部品を「積層造形向け設計(DfAM)」の観点から見直し、持続可能かつ高性能な製造プロセスへの転換を図る。

(3druck.com 5月20日付)

<https://3druck.com/industrie/altair-unterstuetzt-italienisches-forschungsprojekt-zur-optimierung-des-metall-3d-drucks-52147136/>

OMV、ルーマニアにEV用高速充電ハブ開設。乗用車・トラック同時対応で東欧最大規模に

オーストリアの石油大手OMVのルーマニア子会社OMVペトロムは8日、国内最大規模となる電気自動車(EV)用高速充電ハブを開設したと発表した。設置場所はルーマニアを東西に貫く高速道路A1号線沿いで、同国中部ミエルクレア・シビウルのサービスエリアに位置する。上下線合わせて計34口の充電設備を備え、10メガワットの電力容量で乗用車16台、トラック18台を同時に充電できる。

A1号線は欧州の広域交通網「汎欧州運輸ネットワーク(TEN-T)」の一部で、戦略的な重要道路とされる。充電ハブには上下線それぞれに乗用車用8口(出力300キロワット)、トラック用9口(出力400キロワット)を設置。一般的なEVは15~20分で、大型トラックも1.5~2時間で充電を完了できる。

OMVペトロムはルーマニア、モルドバ、ブルガリア、セルビアで約780カ所のガソリンスタンドを展開し、EV対応インフラの整備を加速している。現在の充電口数は約1,000口で、2030年までに5,000口超への拡充を目指す。

(centraleuropeantimes 5月8日付)

<https://centraleuropeantimes.com/2025/05/romania-launches-regions-largest-ev-charging-hub-with-eu-backed-expansion-plan/>

トルコのヴェステル、最大出力 1MW の超高速充電器を独見本市で初披露

トルコの家電大手ヴェステル(Vestel)は5月8日、ドイツ・ミュンヘンで開催中のバッテリー・エネルギー充電システム専門見本市「EES Europe 2025」(5月7~9日)において、新開発の超高速DC充電器「Stella-M」を初披露した。最大出力は1メガワット(MW)で、液冷式冷却システムと10.1インチのタッチスクリーンインターフェイスを搭載。乗用車と大型商用車の両方に対応した設計となっている。

ヴェステルはStella-Mのほかにも、40キロワット(kW)から720kWまでの出力に対応する複数のDC充電器を展示。また、住宅や小規模オフィス向けに開発されたAC充電器「Quattro」「Vario」「Zenith」「Gemini Dual」「Liveo」も紹介した。さらに、住宅、商業施設、送電網での活用を想定したバッテリー・エネルギー貯蔵システム(BESS)も併せて出展し、幅広い電動化ソリューションを提示した。

同社はEV普及の加速に対応し、エネルギー分野での製品群を拡充している。

(aa.com.tr 5月9日付)

<https://www.aa.com.tr/en/energy/news-from-companies/vestel-mobilite-unveils-1-mw-electric-vehicle-charger-at-ees-europe-2025/49112>

オーステッド、英北海の洋上風力「ホーンシー 4」凍結 コスト高と金利上昇で採算難に

デンマークのエネルギー大手オーステッド(Ørsted)は5月7日、英北海で計画していた洋上風力発電プロジェクト「ホーンシー4(Hornsea 4)」を凍結すると発表した。サプライチェーンコストや金利の上昇、建設・運営リスクの拡大により、現行の条件下では事業継続が困難と判断した。プロジェクト権利は保持し、将来的な再開の可能性は否定していない。今回の凍結に伴い、2025年に35億〜45億デンマーククローネ(約4億6,000万〜6億ユーロ)の評価損を計上する。

ホーンシー4は、イングランド東部ヨークシャー沖合に出力2.4ギガワット(GW)の風力発電所を建設し、2030年の稼働を目指す計画だった。英国政府との間で再生可能エネルギー支援の差額決済契約(CfD)を締結し、昨年9月には助成対象に選定されていた。また、日立エナジーが同年12月に系統安定化装置の提供企業に選ばれたことも発表されていた。

洋上風力業界は現在、インフレによる資材費高騰や金利上昇で採算が悪化しており、世界的に逆風が強まっている。オーステッドは2023年11月、米ニュージャージー州の洋上風力計画も中止を発表。独RWEやノルウェーのエクイノールも類似の見直しを進めている。

(プレスリリース 5月7日付)

<https://orsted.com/en/company-announcement-list/2025/05/orsted-to-discontinue-the-hornsea-4-offshore-wind--143901911>

アイシン、トルコに太陽光発電施設 欧州全生産拠点で再エネ 100%達成へ

自動車部品大手のアイシンは5月7日、トルコの子会社AISIN OTOMOTIV PARCALARI SANAYI VE TICARET A.S.が同国に建設した太陽光発電施設「AISIN TURKIYE SOLAR POWER PLANT」が完成し、5月22日に開所式を行うと発表した。この施設は、国内工場への再生可能エネルギー供給を目的としており、これにより欧州における全生産拠点で再生可能エネルギー100%の導入が達成される。

新施設はトルコ中東部のマラティヤ県に位置し、敷地面積は約12万7,000平方メートル。稼働後は年間約4,200トンの二酸化炭素(CO₂)排出削減が見込まれている。

アイシンは欧州地域において2040年のカーボンニュートラル実現を目標として掲げており、今回のプロジェクトはその達成に向けた重要なステップ。2025年までに欧州全域の生産拠点において再エネ比率100%を実現する計画を進めてきた。

(プレスリリース 5月7日付)

<https://www.aisin.com/en/news/2025/009023.html>

米アセンド、ポーランドに pCAM 工場建設 12.5 億ドル投資で EU 補助活用

バッテリー材料リサイクルの米アセンド・エレメンツ(Ascend Elements)は、ポーランド南西部に前駆体正極活物質(pCAM)の工場を建設する。総投資額は12億5,000万米ドルで、欧州連合(EU)の「暫定危機・移行枠組み(TCTF)」を活用し、ポーランド政府から3億2,000万ドルの現金補助を受ける。工場は2028年の稼働を予定し、200人以上の雇用を創出する見通し。建設候補地としてはヴァウブジフ経済特区が有力とされる。

新工場では、同社の独自湿式製錬技術「Hydro-to-Cathode」を採用する。この技術は、リチウムイオン電池の廃棄物(ブラックマス)からリチウム、ニッケル、コバルト、マンガンなどを抽出し、乾燥・焼成して高純度のNMC (ニッケル・マンガン・コバルト)系カソード材料として再生する。従来の高温製錬法と比べてCO₂排出やエネルギー消費が少なく、環境負荷の低減が期待される。

アセンドは2024年9月、ポーランドのエレメンタル・ストラテジック・メタルス(Elemental Strategic Metals)と合弁会社「AEエレメンタル(AE Elemental)」を設立し、ザヴィエルチェでバッテリーリサイクル施設を開所している。ポーランドはリチウムイオン電池生産で世界第2位の規模を誇り、ヴロツワフには韓国LGエナジーソリューションの欧州最大工場も立地する。

(プレスリリース 5月7日付)

<https://ascendelements.com/republic-of-poland-offers-ascend-elements-up-to-usd-320-million/>

BASF、台湾 CCAT に CO₂ 回収技術を供与 台中発電所で商用化めざす CCS 実証に活用

ドイツの化学大手BASFは5月7日、同社の排ガス中の二酸化炭素(CO₂)を効率的に分離する浄化技術「OASE(オーエイス)ブルー」を、台湾のテクノロジー企業カーボン・キャップ・アプリケーションズ・テクノロジー (CCAT)にライセンス供与すると発表した。CCATはこの技術を、台湾電力が進めるCO₂回収・貯留(CCS)実証プロジェクトに導入する。

台湾電力は、自社の台中発電所敷地内に設けた炭素削減テクノロジーパークで、年間2,000トンのCO₂分離を目指すパイロットプロジェクトを実施している。成功すれば、年間100万トンの回収を想定した実証プラントの建設へと移行する方針。回収したCO₂は当初は発電所内に貯留されるが、将来的には海底下の地層に圧入して貯留する計画だ。

OASEブルーは火力発電所の排ガスからCO₂を90%以上の高率で分離可能で、エネルギー消費とアミン使用量が少ない点が特徴。CCATのダニエル・ヤオ常務取締役は「台湾初の商業用CCSプロジェクトに携われること、BASFと高度な技術で連携できることを光栄に思う」と語った。

(プレスリリース 5月7日付)

<https://www.basf.com/global/en/media/news-releases/2025/05/p-25-096>

サムスン、独フレクトを買収 データセンター向け冷却需要で HVAC 事業拡大へ

韓国のサムスン電子は5月14日、独有力空調メーカーのフレクトグループ(Flect Group)を、欧州系投資会社トリトン(Triton)から完全買収することで合意したと発表した。人工知能(AI)処理の急拡大に伴い、電力消費が大きいデータセンター向けの冷却需要が増す中、サムスンは暖房・換気・空調(HVAC)分野での事業拡大を狙う。買収額は非公表で、年内の取引完了を見込む。

フレクトは創業100年以上の老舗HVACメーカーで、ドイツ西部ヘルネに本社を構える。データセンター、商業施設、美術館、空港、病院、工場など幅広い分野に空調ソリューションを提供し、世界65カ国で事業を展開。従業員は3,500人超で、欧州、アジア、米国に生産拠点を持つ。

今回の買収により、サムスンはITインフラと空調分野の融合を図り、持続可能で効率的な冷却ソリューションを通じてHVAC市場での競争力を強化する方針だ。

(プレスリリース 5月14日付)

<https://www.flaktgroup.com/de-at/news/news-archive/2025/may/samsung-to-acquire-flaktgroup-from-triton/>

インフィニオンと米 Visteon、EV 向け次世代パワートレインで協業 WBG 技術で高効率化へ

ドイツの半導体大手インフィニオン・テクノロジーズ(Infineon Technologies)は、米自動車部品大手のビステオン(Visteon)と、電気自動車(EV)向け次世代パワートレインの開発に向けた意向書(LoI)を締結した。両社は「ワイドバンドギャップ(WBG)技術」に着目し、インフィニオン製の高耐圧・高効率半導体を活用したパワー・コンバータ(電力変換器)の共同開発および統合に取り組む。

開発対象には、インフィニオンの窒化ガリウム(GaN)製品「CoolGaN」および炭化ケイ素(SiC)製品「CoolSiC」が含まれる。これらを組み込んだビステオン製のパワートレインモジュールは、バッテリー・ジャンクション・ボックス、DC/DCコンバーター、オンボード充電器(OBC)などに利用される予定。

WBG技術は従来のシリコン部品と比較して電力密度や変換効率、熱性能に優れ、EVにおける電力変換の高効率化とコスト低減に貢献するとされる。ビステオンは本協業を通じ、次世代EV向け電力制御ユニットでの高度な半導体統合とエネルギー変換の最適化を目指す。

(Next Mobility 5月12日付)

<https://www.next-mobility.de/infineon-und-visteon-entwickeln-leistungswandler-fuer-elektrofahrzeuge-a-ae41aca9a5fc83c47cbd8fa492be8e32/>

番号：5592

ZF とスペインの KD が提携 光トランシーバで次世代車載通信を強化

スペインの半導体企業KDは、ドイツの自動車部品大手ZFグループとの技術提携を発表した。KDの光トランシーバ「KD7251」を、ZF製の高性能車載コンピュータ「ProAI ECU」に統合する計画で、車載向けマルチギガビット光通信の普及を狙う。両社はIEEE 802.3czに準拠した10GBASE-AUポート対応の光通信技術を通じて、ソフトウェア定義車両(SDV)の実現を後押しする。

「KD7251」は、2.5/5/10Gb/sの伝送速度に対応したシングルチップ型光トランシーバで、オンチップの光インタフェースとブリッジ機能を備える。MIPI準拠のカメラ(CSI-2)、レーダー、ディスプレイ(DSI-2)、AIプロセッサ(PCIe)などと高速接続が可能。ガラス製OM3マルチモード光ファイバーを用いた40メートル伝送も全温度帯で10Gb/sを維持できる。

EMCシールドを内蔵しており、外付け部品なしで最高水準のEMC適合を実現。PCB面積や部品点数の削減に寄与し、ESD保護やEMI対策部品も不要となる。また、MACsec、ASIL-B、TSN(時間感受性ネットワーク)、ウェイクアップ&スリープ機能、OAM、信頼性管理といった車載規格に幅広く対応している。

ZFは本技術により、10Gb/sを超える通信が実現可能となり、将来的な車載ネットワークの中核技術として、自動運転や商用車分野での実装が期待できるとしている。

(プレスリリース 5月13日付)

<https://kd.tech/kd-celebrates-zf-implementing-10gbase-au-port-with-kds-kd7251-transceiver/>

Via Optronics と Autolink が提携 次世代スマートコックピットを欧州展開へ

ドイツのディスプレイ技術企業Via Optronicsと電子制御技術を手がけるAutolinkは、車載ディスプレイ領域における次世代スマートコックピット開発で提携すると発表した。ドイツ市場の要件に即した製品開発を念頭に、事業運営、販売・マーケティング、エンジニアリング分野での協業を進める。

両社はこの提携を通じ、欧州市場に向けたコックピットプラットフォーム向けの統合自動車システムを展開する計画。Autolinkは、コックピット・ドメイン・コントローラーやネットワーク接続型ソフトウェア、車載オペレーションサービスなどを中核に据え、電子制御領域での技術力に強みを持つ。一方、Via Optronicsは、ADAS(先進運転支援システム)や車載カメラ、タッチディスプレイ、光学HMI(人間・機械インターフェース)に特化しており、高度なディスプレイ統合技術に定評がある。

両社は今後、スマートコックピットにおけるユーザー体験を革新する技術の欧州市場導入を目指す。Autolinkは「本提携により、ドライバーと車両の接点に新たな価値を提供し、次世代車載UXの普及を加速できる」と述べている。

(Automobil Industrie 5月7日付)

<https://www.automobil-industrie.vogel.de/automobilzulieferer-via-optronics-autolink-a-88dc9029c10342450b33bb523afbb30a/>

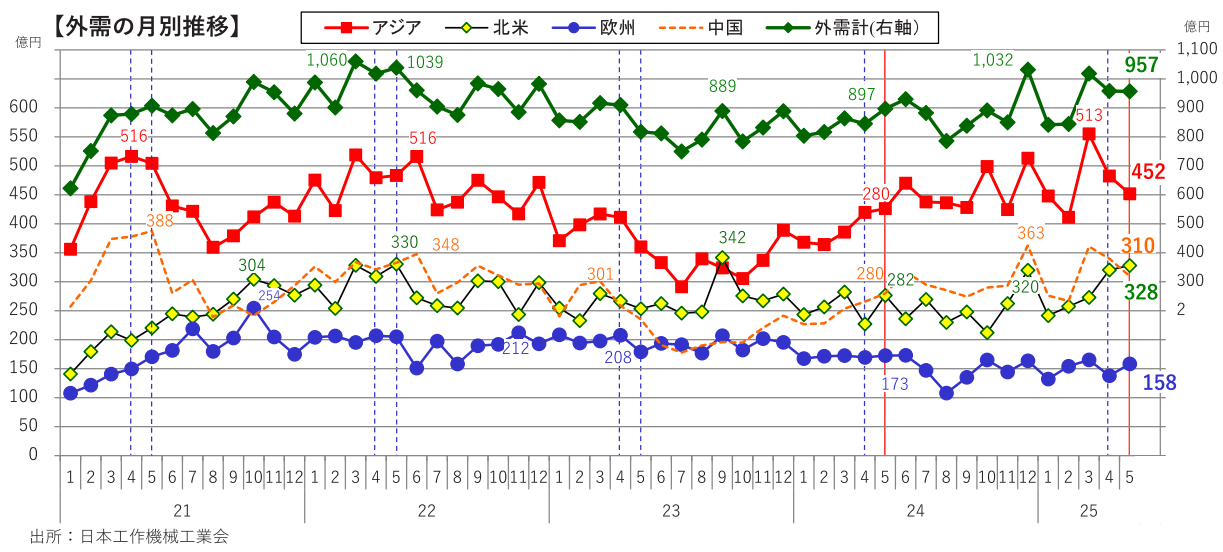
6. 日工会外需状況（5月）

外需【5月分】

957.0億円（前月比 △0.1% 前年同月比 +6.7%）

外需総額

- ・ 前月比は2カ月連続減少。前年同月比で8カ月連続増加し、9カ月連続の800億円超え。
- ・ 北米のみ前月比、前年同月比ともに増加。欧州は前月比増加、前年同月比で減少。



外需【5月分】

主要3極別受注

①アジア

- アジア計は、2カ月連続の500億円割れも、前年同月比14カ月連続の400億円超と堅調持続
- 東アジアは、2カ月連続の400億円割れ。
 - 中国は前月比で減少も、300億円超えと堅調を維持。
 - その他アジアは2カ月ぶりの100億円超え。
 - インドは2カ月連続の50億円割れ。

②欧州

- 欧州計は、2カ月ぶりの150億円超え。
- ドイツは、3カ月ぶりの35億円超え。
 - イタリアは、前月比、前年同月比ともに増加。
2023年7月以来（22カ月ぶり）の30億円超え。

③北米

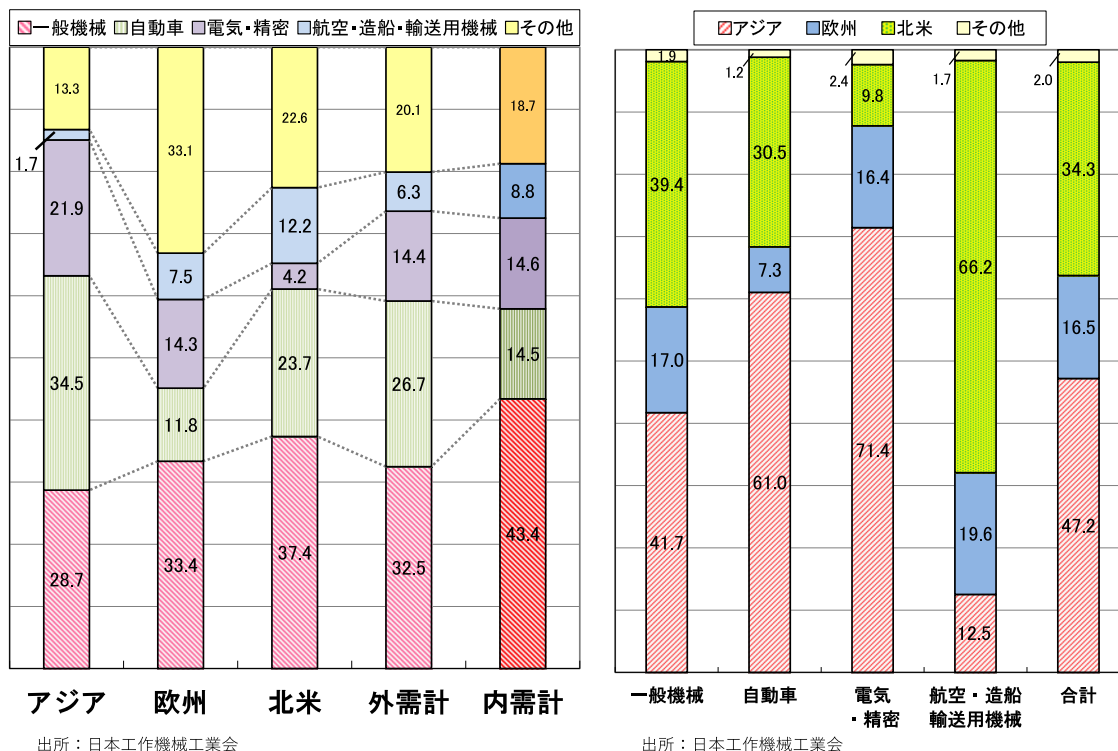
- 北米計は、4カ月連続の250億円超え。300億円越えは2カ月連続
- アメリカは、2カ月連続の250億円超え。
 - メキシコは前月比で大幅減少も、2カ月連続25億円超え。

国・地域	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
アジア	451.7	△6.4 2か月連続減少	+6.0 14か月連続増加
東アジア	349.7	△10.6 2か月連続減少	+5.3 14か月連続増加
韓国	24.0	△26.0 2か月ぶり減少	△19.9 6か月ぶり減少
中国	309.5	△8.9 2か月連続減少	+10.6 14か月連続増加
その他アジア	102.0	+11.7 2か月ぶり増加	+8.4 2か月ぶり増加
インド	45.3	△4.6 2か月連続減少	+7.8 2か月ぶり増加
欧州	158.3	+14.9 2か月ぶり増加	△8.3 17か月連続減少
ドイツ	36.3	+7.3 3か月ぶり増加	+3.1 18か月ぶり増加
イタリア	32.6	+38.2 2か月ぶり増加	+35.3 2か月ぶり増加
北米	327.9	+2.4 4か月連続増加	+18.7 2か月連続増加
アメリカ	289.9	+6.5 4か月連続増加	+22.8 4か月連続増加
メキシコ	25.4	△36.0 3か月ぶり減少	+7.4 2か月連続増加

出所：日本工作機械工業会

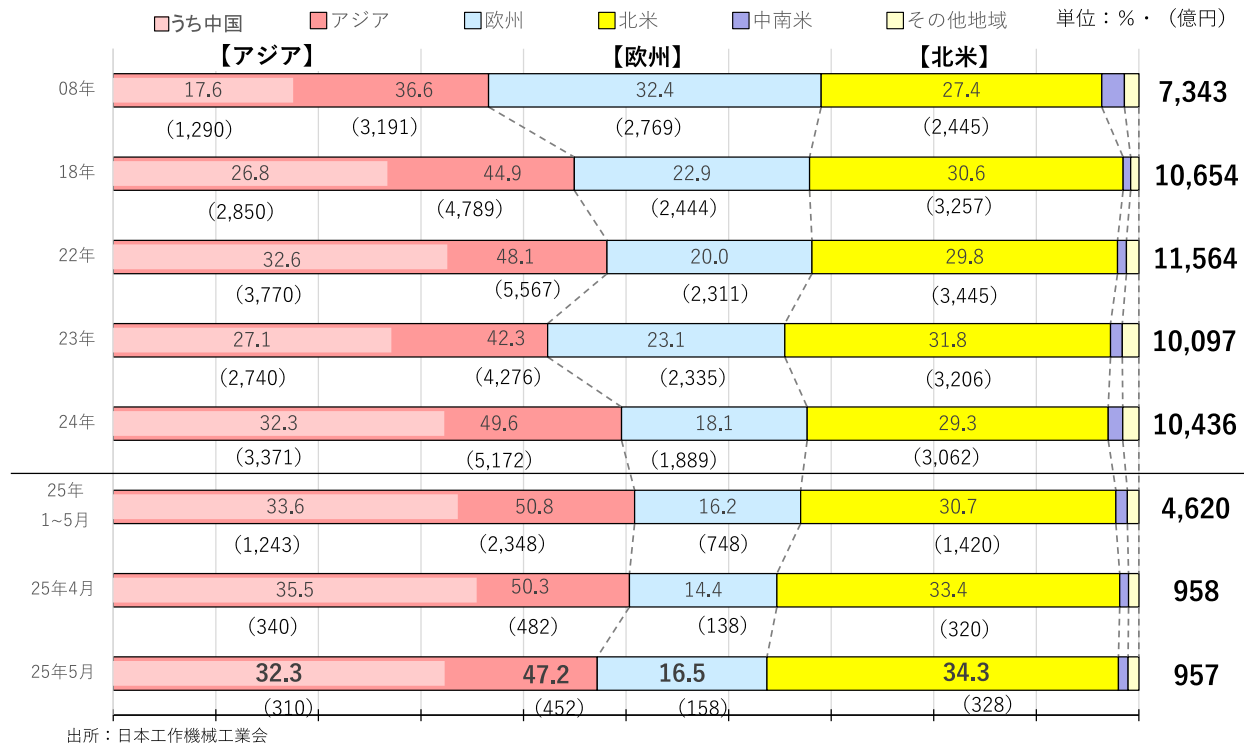
外需【5月分】

主要3極別・業種別受注構成



外需 地域別構成の推移

5月は、2カ月連続北米比率が30%を上回った。





開催日程：2025 年 7 月 16 日 (水) 10:00 ～ 19:00

参加登録 : rok.auto/45s6aS5

製造業の未来を拓く～日本のものづくりをより強くする生産の革新と効率を融合

今年は、「製造業の未来を拓く～日本のものづくりをより強くする生産の革新と効率を融合」をテーマに、急変する事業環境への対応をシンプルに実現する DX テクノロジーをご紹介します。

ROKLive Japan は、毎年恒例の当社主催イベントです。昨年と同様に、今年もお客様やパートナーの皆様に直接お会いできることを心よりうれしく思います。

ROKLive Japan では、基調講演、パネルディスカッション、ユーザによる事例紹介、製品デモ展示など、盛りだくさんのプログラムをご用意しています。私たちもパートナー企業と協力し、お客様をお迎えできることを楽しみにしています。

ROKLIVE JAPAN 2025 開催概要

開催日程： 2025 年 7 月 16 日 (水)

時間： 10:00 ～ 19:00 ※途中入室・退場は自由です。

会場： 赤坂インターシティコンファレンス 4 階

参加費： 無料 (事前登録制)

登録締切： 2025 年 7 月 14 日 (月) 23:59

対象： 設計部門全般・生産管理・生産技術・品質保証・DX 推進・IT 推進・業務改革部門の責任者の方およびご担当者様



基調講演

市場での攻防双方に寄与する DX というテーマで、製造業における有数の機関や団体、インフルエンサーにご講演いただきます。



各種製品の動的展示

ご来場の方の理解を深めていただくための、実製品やソリューションの動的展示をご覧ください。



ユーザ講演

基調講演の内容を実社会で展開する企業例として、各企業における DX の適用 (または考察) 背景とその状況についてご講演いただきます。



パートナ / 弊社のセッション

DX を基盤技術で支えるパートナおよび弊社より、ユーザ課題に対する DX 提供実績、各種近年技術によるソリューションをご説明いたします。



懇親会

ご講演者様、ご参加者様一同による親睦会を開催します。
(講演会終了後に夕方開催)

主催：ロックウェルオートメーション ジャパン株式会社

後援：アメリカ大使館 商務部

イベントの詳細と申し込みはこちらから:

<https://www.rockwellautomation.com/ja-jp/events/roklive-japan-2025.html>



プログラム

※ プログラムは都合により変更になる場合がありますので予めご了承ください。

	通路	Amphitheater	Green	Air	401 ルーム	402 ルーム	404 ルーム
10:00 ～11:35	デモ展示		デモ展示	基調講演 「オープニングリマークス」 アメリカ合衆国大使館 商務部 上席商務官 マイケル・ミドルトン 様 「ご挨拶と未来の製造」 代表取締役社長 矢田 智巳 「製造業の未来を拓く ～ 日本のものづくりをより強くなる生産の革新と効率を融合」 アジア太平洋地域社長 スコット・ワールドリッジ (通訳あり) 早稲田大学教授 尾形 哲也 様 東京大学名誉教授 佐藤 知正 様			
11:35 ～11:50	移動・デモ見学						
11:50 ～12:30	デモ展示	ランチョン講演 富士ソフト株式会社	デモ展示	ランチョン講演 シスコシステムズ合同会社	ランチョン講演 ベンギンソリューションズ株式会社		
12:30 ～12:45	移動・デモ見学						
12:45 ～13:10		安全計装(SIS)講演 東京電機工業株式会社 & 株式会社守谷商会			ロックウェル講演・未来編 「デジタルツインの未来」 (高松 典彦)	ロックウェル講演 「『どう進めればいいのか?』がー一番の壁。OT セキュリティ対策の課題と 本当の進め方」(浜田 剛史)	ロックウェル講演 「リニア搬送システムと自律型搬送ロボット AMR が叶えるスマートファクトリー物流の 最新編」(李 花子)
13:10 ～13:25	移動・デモ見学						
13:25 ～14:05				ユーザ講演 住友ゴム工業株式会社 伊藤 剛 様			
14:05 ～14:20	移動・デモ見学						
14:20 ～14:45		PLEX + MES コラボ講演 NSW 株式会社 + 吉崎 哲郎			ロックウェル講演・未来編 「デジタルスレッドの未来」 (奥 剛男)	ロックウェル講演 「えっ、AI がラダーを設計?..そんな時代なんです」(高田 真司)	ロックウェル講演 「お客様自ら変化に対応できる製薬製造向け MES 及び周辺ソリューション」(藤澤 俊彦)
14:45 ～15:00	移動・デモ見学						
15:00 ～15:40				ユーザ講演 Daikin Tsingyan Advanced Technologies (ダイキン工業株式会社の化学事業) 池 等等 様			
15:40 ～15:55	移動・デモ見学						
15:55 ～16:20		本質安全(防塵 HMI とタブレット・ モバ(ル)端末) 株式会社ビーアンドエフ			ロックウェル講演・未来編 「スマート工場の未来」 (吉田 高志)	ロックウェル講演 「製品画像認識 AI & 設備監視 AI で実現する品質改善と予防保全」 (石川 鉄郎)	ロックウェル講演 「省人化・スマート製造のかぎを握る！ PLC・モーション・安全制御等をつづにする 統合アーキテクチャとは?」(松山 昂彦)
16:20 ～16:35	移動・デモ見学						
16:35 ～17:15				「パネルドイスカッション」 パネラー： ・東京理科大学 工字部情報工字科客員教授 松尾 祐一 教授 ・Biopharmaceutical Facility Engineering & Consulting 上根 祐 様 ・株式会社ジエムコ 河崎 正博 様 モデレータ：吉田 高志 司会：菅原 一雅			
17:15 ～19:00				カクテルパーティ			

ロックウェル・オートメーション講演要旨

1. 未来編：「スマート工場の未来」(吉田 高志)
今後の製造という事柄を見据えた時、より一層の生産性の向上や柔軟な各種設備の迅速立ち上げといった対応が急務となっています。
一方で、製造現場では恒久的な人手不足や知見継承に悩まされ、前述のような対応を実施するには実数が足りないという現実と直面します。
これらを経て解決に導く新たな原動力がデジタルの技術であり、今回は、その一端である SDA (Software Defined Architecture) について触れます。

2. 未来編：「デジタルツインの未来」(高松 典彦)
203X 年、昔 VR ゴーグルをかけ、デジタルツイン仮想生産工場に入ります。
デジタルツインを活用した経営会議、デジタルツイン朝礼、定検段取り事前確認…、生産デジタルツインを活用した実生産活動があたりまえとなります。

3. 未来編：「デジタルスレッドの未来」(濱 則男)
OT・IT データをつなぎ、複数システムの間で埋もれていたデータを意思決定できる情報に変える全体最適に向けたデータ活用の将来の姿を提案します。

4. 「『どう進めればいいのか?』がー一番の壁。OT セキュリティ対策の課題と本当の進め方」(浜田 剛史)
OT セキュリティ対策、やらないといけないのは分かっているけど、なかなか手を付けられていない。
そのような状況をどう打破するのか、明日から動き出せるような具体的なアプローチに触れながらご説明します。

5. 「省人化・スマート製造のかぎを握る！ PLC・モーション・安全制御等をつづにする統合アーキテクチャとは?」(松山 昂彦)
長年の進化を遂げたこのプラットフォームが、なぜ今、製造現場で求められているのか。
スマート製造の視点から、その価値と必要性をわかりやすく紹介します。

6. 「お客様自ら変化に対応できる製薬製造向け MES 及び周辺ソリューション」(藤澤 俊彦)
製薬向け MES の FT PharmaSuite は、豊富な状態機能を持ちユーザによる設定が容易なため、変化に柔軟に対応が可能です。
本講演ではその特長と弊社の周辺ソリューションをご紹介します。

7. 「製品画像認識 AI & 設備監視 AI で実現する品質改善と予防保全」(石川 鉄郎)
モデル作成やデータ分析の課題でお悩みの企業様へ。専門知識がなくても活用できる、ノーコード対応の弊社 AI ソリューションを使って、品質改善と予防保全を効率的に実現する方法を紹介します。

8. 「リニア搬送システムと自律型搬送ロボット AMR が叶えるスマートファクトリー物流の最新編」(李 花子)
止まらない目付無人の物流で、リニア搬送システムと(AMR)自律型搬送ロボットが織りなす、充填・包装・搬送等工場内の生産性を飛躍的に向上させるソリューションをご紹介します。

9. 「えっ、AI がラダーを設計?..そんな時代なんです」(高田 真司)
PLC プログラム開発や HMI 設計をクラウド上で実現する FactoryTalk Design Hub を紹介します。チームの共同作業やリモートアクセスが可能となり、更に生成 AI も活用できます。
- デモ展示

愛電株式会社
シスコシステムズ合同会社
富士ソフト株式会社
株式会社ビーアンドエフ
NSW 株式会社
ベンギンソリューションズ株式会社
株式会社守谷商会 & 東京電機工業株式会社
アクセント株式会社
株式会社日新システムズ & 株式会社 EMPRESS SOFTWARE JAPAN
フォーティネットジャパン合同会社
伊東電機株式会社
株式会社クマエンジニアリング
新星工業株式会社
株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社



インド進出セミナー in MF-TOKYO 2025（2部構成）

「インド進出セミナー & IMTEX Forming 2026（工作機械含む）展示会説明」無料 <先着 120 名様>

この度、MF-TOKYO 2025 におきまして、インド工作機械工業会（IMTMA）および日印ビジネスビューロー（JIBB）主催による「インド進出セミナー（2部構成）」を開催いたします。

両部とも、インド市場を視野に入れた企業様にとって有益な内容となっておりますので、ぜひ続けてご参加ください。

特別講演：「インド市場でのサクセスストーリー（仮）」

講演者： Mr. Yuki Kita, President & CEO, FANAC India

<会場／会期>

日時：2025 年 7 月 17 日（木）13:30 - 17:00（2部構成）

会場：東京ビッグサイト 会議棟 6F 609 号室

参加費：無料（先着 120 名）※定員を超えるお申し込みがあった場合、各社 1 名までのご参加をお願いすることがございます。

<主催者団体>

主催： インド工作機械工業会（IMTMA）
後援： 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会（JFMA）
協力： 一般社団法人 日本工作機械工業会（JMTBA）
事務局： NPO 法人 日本インドビジネスビューロー（JIBB）
運営： 日印コンサルティング株式会社

<講演プログラム（予定）>

■ 第 1 部 | 13:30 - 15:00（受付開始 13:00）

タイトル：インド塑性加工業界の現状と展望 & IMTEX Forming 2026（工作機械含む）のご案内

講演内容・講演者（予定）：

	講演内容	講演者
1	ご挨拶	日本鍛圧機械工業会（JFMA）専務理事 生田 周作 様
2	インド塑性加工業界の最新動向	インド工作機械工業会（IMTMA）Mr. Mahesh M. K., Joint Director
3	インド市場でのサクセスストーリー（仮）	FANAC India, Mr. Yuki Kita, President & CEO
4	IMTEX Forming 2026 開催概要・出展要領	インド工作機械工業会（IMTMA）Mr. Rajesh Sarkar - Director, HR & Admin
5	インド進出に対する事前リサーチとコンサルの重要性	日印ビジネスビューロー（JIBB）代表 安井 重磨 氏
6	質疑応答	

【出展者限定】IMTEX Forming 2026
での顧客商談会を実施。
事前に面会希望企業を優待いたします。
（参加確約ではありません）

■ 休憩/第 2 部受付 | 15:00 - 15:30

■ 第 2 部 | 15:30 - 17:00

タイトル：メイク・イン・インド × ジャパン：産業成長に向けた日印の共創ビジョン

講演者（予定）：

Nishant Kashyap 氏（NPO 法人 日印ビジネスビューロー 技術統括ディレクター／ET Manufacturing（The Economic Times）特別顧問）

安井 重磨 氏（NPO 法人 日印ビジネスビューロー／日印コンサルティング株式会社 CEO）

講演内容（予定）：自動車・工作機械・製造設備・半導体などの市場動向 / 展示会開催概要（IMTEX Forming 2026, IMTEX 2027, D&M India 2026, Semicon India 2025, International Auto Tech 2025, Bharat Mobility 2027） / 日本企業がインド市場に参入するためのポイントと課題 / BIS 認証の取得方法について / 質疑応答

<お問い合わせ>

【日本代表事務局】

日印コンサルティング株式会社

担当： 安井 Tel：090-9325-3456 / yasui@ji-consulting.jp

橋倉 Tel：080-6516-4331 / trade@ji-consulting.jp

参加申し込み受付リンク

<https://forms.office.com/r/beDxfvBwYj>



2025台湾鍛圧機械 海外促進記者会見

7.17 木 10:35-11:45

東京ビッグサイト 会議棟7F 701号室

参加費:無料
定員:先着50名
使用言語:日本語



主催:台湾機械工業同業公会(TAMI)
お問い合わせ:留 健維 tami.jasonliu@gmail.com

プログラム

10:00 受付

/
10:30

10:30 ご挨拶

/
10:35

10:35 高精度薄板加工とグリーンエネルギー応用の可能性

/
10:55 講演者: 許 貴彰 シニアマネージャー

SHIEH YIH MACHINERY INDUSTRY CO., LTD.



10:55 ファイブランキングテクノロジーと設備

/
11:15 講演者: 重留真一, 技術顧問

SANES PRESSES CO., LTD.



11:15 プレス加工の知能化管理システムの応用

/
11:35 講演者: 張 材培 エリアマネージャー

CHIN FONG MACHINE INDUSTRIAL CO., LTD.



11:35 質疑応答

/
11:45

